

継続的な改善活動のために！

2009

在学生・卒業生・教職員

# KIT総合アンケート調査結果 [報告書] (抜粋)

学校法人 金沢工業大学

## KIT総合アンケート調査結果について

学長 石川 憲一

周知のように、'70年代を境目として我が国における大学を始めとする高等教育は大きく変化し、最近に至ると修学年齢世代の約50%が大学・短大へと進学する所謂「大学教育のユニバーサル化現象」が生じてきております。このような状況は一面においては、資源小国である我が国にとって人材と言う『財』を然るべく育成し、国民の知的水準を向上することは望ましいことではありますが、一方では卒業生の質的保証や当該大学に対する満足度等に関しては、従来から不明な点が多いのが現状であります。

金沢工業大学は、開学以来44年の歴史を着実に刻み、'08年4月より工学部、環境・建築学部、バイオ・化学部、情報学部から成る4学部14学科体制を有する理工系総合大学に移行いたしました。このような展開の中にあって、'95年度以来実践して参りました教育改革の成果の内、外部評価の一環として'02年度には機械系並びに材料系、'03年度には環境系並びに建築系の教育プログラムに対して『日本技術者教育認定機構：JABEE』の認定を受け、加えて'04年度に大学基準協会が実施した認証評価にて「基準に適合」との認定を受けることが出来ました。これからは、全ての教育プログラムのJABEE認定を目指すと共に、日本経営品質賞等の視点やメジャーの異なる外部評価を受ける予定であります。そして、'03年度に文部科学省が実施いたしました『特色ある大学教育支援プログラム：GP』に「工学設計教育とその課外活動環境」が採択されたことを受けて、更に本学教育改革を推進させるために、'96年並びに'02～'08年に引き続いて在学生・卒業生・教職員の各位に対して8種類のアンケートを依頼致しました。

通常、この種のアンケートは自己点検・自己評価の下に行われる訳ですが、本学では第三者である(有)アイ・ポイントにアンケートの設計から調査結果の評価並びに分析に至るまで全てを依頼いたしましたので、より客観性のある報告書になり得たものと考えております。

本アンケートはこれからも継続して実施すると共に、今回得られた結果を踏まえて本学の工学教育・技術者教育へフィードバックしながら、卒業生・修了生の質的保証や在学生の更なる満足度の向上に資することに致したく思っておりますので、忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いです。

最後になりましたが、本アンケートにご協力いただきました関係各位に対しまして、衷心より感謝申し上げる次第であります。

# 目次

※本報告書(抜粋)のページ番号は、報告書(全文)の目次に対応しているため、連動していません。

<1>	本調査の全体像	1
<2>	在学生、卒業・修了生の基本属性	7
<3>	入学前、在学中の目的・目標意識	13
<4>	大学に対する満足度	19
<5>	授業・学習支援の評価	33
<6>	教職員と大学の改善取り組み状況、学内マナーの評価	49
<7>	KIT Eagle Nestの評価	61
<8>	KIT-IDEALSに関して	75
<9>	卒業時の能力	85
<10>	新入生アンケートの分析結果	91
<11>	教職員アンケートの分析結果	107
<12>	全体のまとめ	117
<13>	フリーアンサー集	133
<14>	調査票見本	323

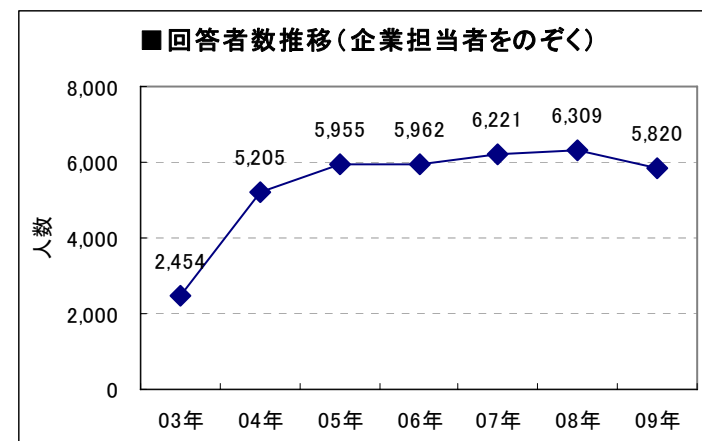
# <1-1> 調査の目的と概略

## ■ 調査目的

- 本調査は金沢工業大学(以下、KIT)を取り囲む関係者の中から、「在學生(新入生～卒業・修了直前)」「卒業・修了生」「教員」「職員」を対象として、KITに対する評価、満足度を聞き、過去の回答と比較しながら現状を把握することを主目的としている。
- そして、上記の各層が「KITをどのように見ているか?」「各々の見方にはどのような違いがあるのか?」「以前とどのように変わっているのか?」といった基礎的な情報を把握し、今後の学校運営、広報の検討に活用できるとりまとめている。
- 本調査は2003年より実施しており、今回が7回目となる。同一内容で比較できる設問に関しては時系列変化で分析しているが、今回は設問内容の大幅な見直しを行っているため、単年度の評価のものが多い。

## ■ 調査方法

調査時期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2009年2月～4月に実施</li> <li>・ 2005年の調査より、在學生への調査期間を年度当初(4月)から年度末(2月)に変更している。</li> </ul>
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「在學生」「教職員」は学内で配布し、回収ボックスで回収し、卒業・修了生は郵送によって配布、回収した。</li> <li>・ 全て『無記名式』とした。</li> </ul>
回収数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今回の全回収数は5,820サンプルであった。</li> <li>・ 属性別の回収数は下記の通り。</li> </ul>
調査主体	学校法人 金沢工業大学
集計分析	(有)アイ・ポイント



## ■ 年度別回収数

対象者	調査時点での属性	03年 回収数	04年 回収数	05年 回収数	06年 回収数	07年 回収数	08年 回収数	09年 回収数	備考
新入生	入学直後	724	1,672	1,610	1,747	1,642	1,652	1,568	新学科体制(4学部、14学科)
1年次生	1年次終了時点	106	1,007	1,379	1,364	1,505	1,461	1,369	
2年次生	2年次終了時点	49	792	1,533	1,313	1,267	1,455	1,146	
3年次生	3年次終了時点	106	449	441	599	768	793	643	旧学科体制(3学部、15学科)
卒業・修了直前	卒業・修了直前	976	914	610	549	669	664	711	入社後1年の卒業生
卒業・修了生	卒業・修了生	163	107	97	80	90	57	110	
教員	在職中の教員	143	133	151	157	136	118	118	
職員	在職中の職員	187	131	134	153	144	109	155	
企業担当者	KIT卒業生が就職した企業	実施せず	実施せず	485	実施せず	実施せず	660	実施せず	09年は実施せず
合計		2,454	5,205	6,440	5,962	6,221	6,309	5,820	

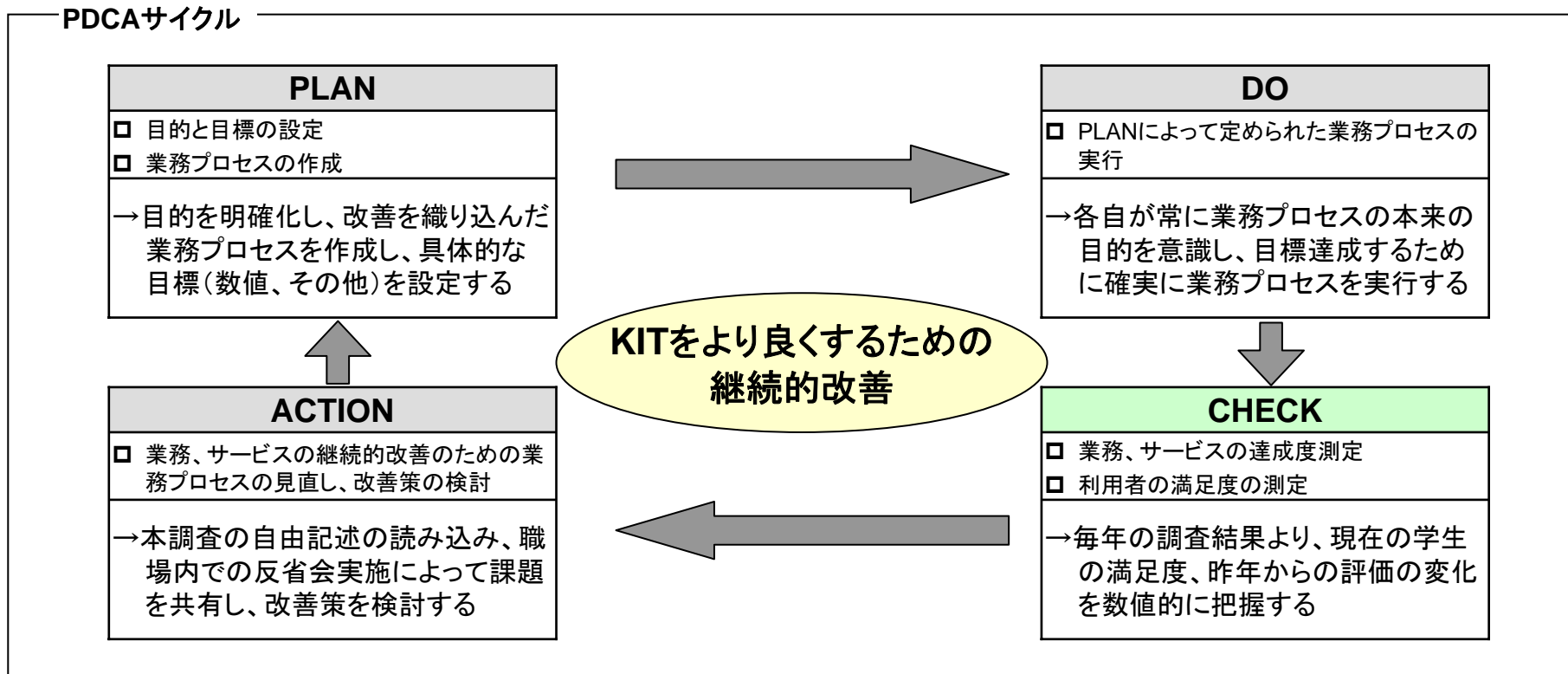
## ■集計に関して

分野	注意点
無回答に関して	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 無回答は全て集計から除外した。</li><li>・ 割合を見る分析、加重平均を見る分析ともに、無回答は除外して集計した。</li></ul>
加重平均に関して	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 各調査項目を属性毎に比較するため、加重平均値を多く活用している。</li><li>・ 今回の調査では、選択肢を「思う～どちらかといえば思う～どちらかといえばそう思わない～そう思わない」などのように4択式で構成した。なお、「あてはまらない、分からない」は無回答として処理した。</li><li>・ 加重平均は上記の選択肢に、+10点、+5点、-5点、-10点を掛けて回答者数で除して算出した。従って、最高点が10点で最低点がマイナス10点となる。</li><li>・ 「あてはまらない、分からない」「無回答」は回答者数に含めていない。</li></ul>
グラフに関して	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 折れ線グラフは主に時系列変化を見る際に利用されるが、この報告書では加重平均を属性毎に比較する際に、本来の棒グラフでは見にくくなるために折れ線グラフで表現しているものもある。</li></ul>

# <1-2> 調査の位置づけ

## ■PDCAサイクルの中での本報告書の位置づけ

本報告書は前出の目的に基づいて作成されているが、具体的なPDCAサイクルの中では下記のように位置づけられる。



- 今回の調査によって得られた「KIT関係者のKITに対する評価、満足度」は、上記「PDCAサイクル」の中の「CHECKステップ」に相当する。
- 「PDCAサイクル」は一時的なものではなく、継続的な改善を目指すものである。従って「他の施設や機能と比較して評価がどうであったか？」という相対的な結果を見るよりも、「昨年と比較して評価がどう変化したのか?」「自らが設定した目標は達成したのか?」といった変化を見る方が、よりPDCAのサイクルに則した見方ができるものと思われる。
- また、今後の改善策を検討するためには、「自由記述」が有効であり、多くのヒントが含まれているものと思われる。
- 本調査企画は昨年から改善を重ねて内容を見直しているため、質問方法、選択肢などが異なる部分もあるが、今後はこれらの違いをできるだけ少なくし、より比較検討が行いやすい内容にしていく予定である。

# <2-1>在学生・卒業生の基本属性

## ■所属学部、出身高校の課程、入学に至った入試

### ■在学生・卒業生の所属学部

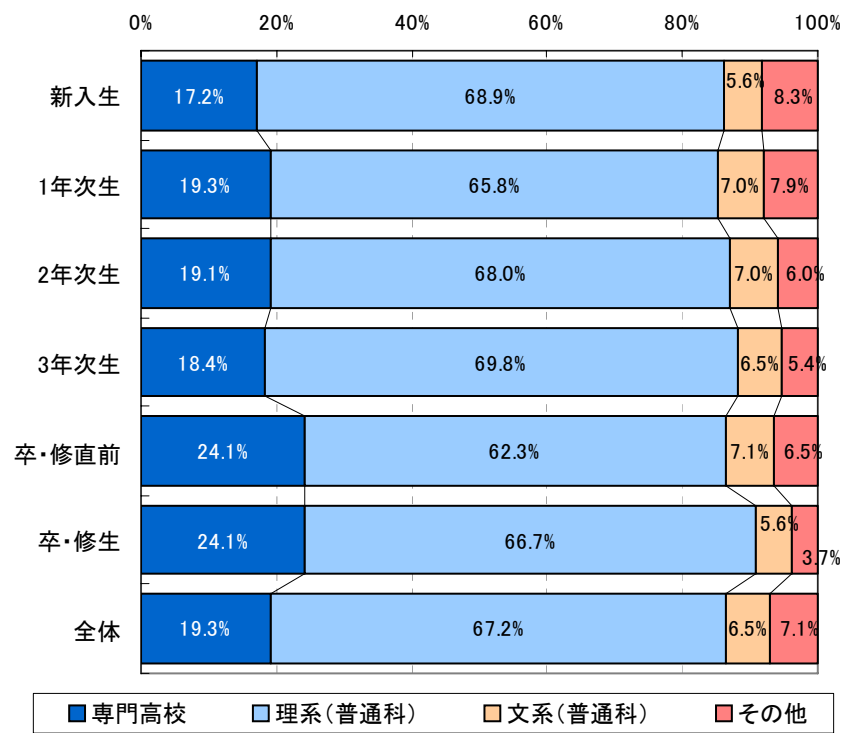
(単位:人)

属性	工学部	情報学部	環境・ 建築学部	バイオ・ 化学部	無回答	全体
新入生	690	434	240	200	4	1,568
1年次生	587	369	251	153	9	1,369

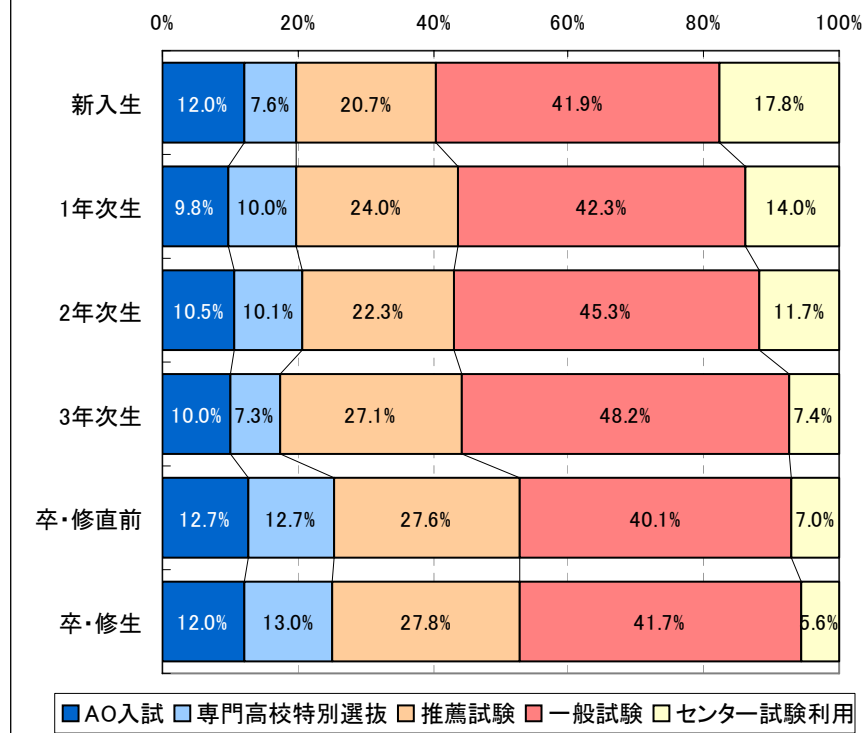
  

属性	工学部	環境・ 建築学部	情報 フロンティア学部	大学院	無回答	全体
2年次生	610	307	219		10	1,146
3年次生	314	197	124		8	643
卒・修直前	336	190	138	44	3	711
卒・修生	53	29	15	10	3	110

### ■出身高校の課程



### ■入学に至った入試

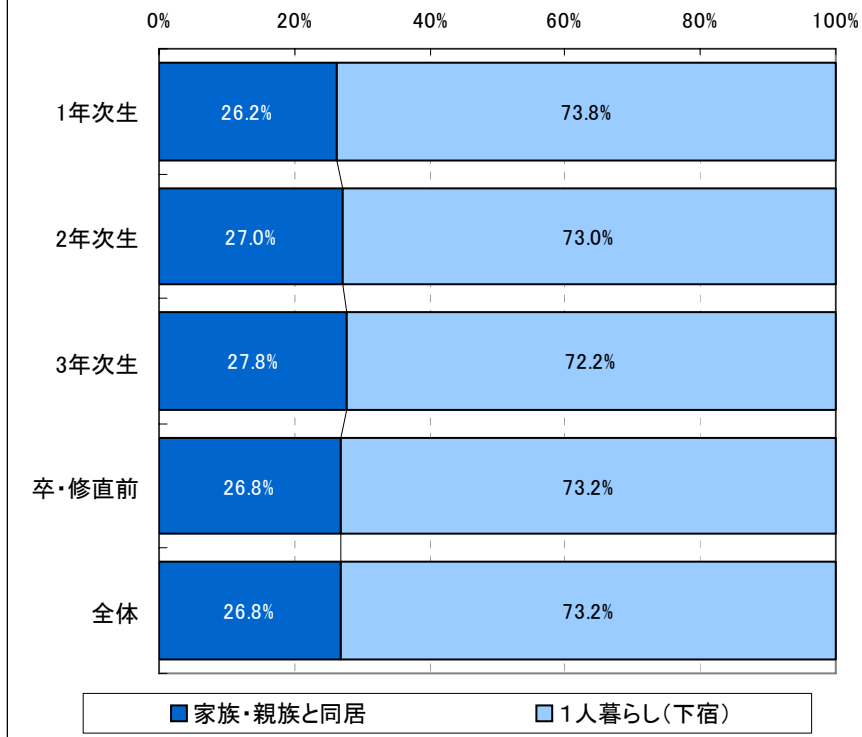


■在学生の出身地域、家族・親族との同居状況

■在学生の出身地域

	北海道・東北	関東	甲信越	北陸	東海	関西	中国・四国	九州・沖縄	全体
1年次生	56	59	182	664	161	134	60	37	1353
	4.1%	4.4%	13.5%	49.1%	11.9%	9.9%	4.4%	2.7%	100.0%
2年次生	50	30	179	553	151	98	52	27	1140
	4.4%	2.6%	15.7%	48.5%	13.2%	8.6%	4.6%	2.4%	100.0%
3年次生	31	19	84	281	109	65	32	13	634
	4.9%	3.0%	13.2%	44.3%	17.2%	10.3%	5.0%	2.1%	100.0%
卒・修直前	41	35	78	324	119	72	33	6	708
	5.8%	4.9%	11.0%	45.8%	16.8%	10.2%	4.7%	0.8%	100.0%
全体	178	143	523	1822	540	369	177	83	3835
	4.6%	3.7%	13.6%	47.5%	14.1%	9.6%	4.6%	2.2%	100.0%

■家族・親族との同居状況



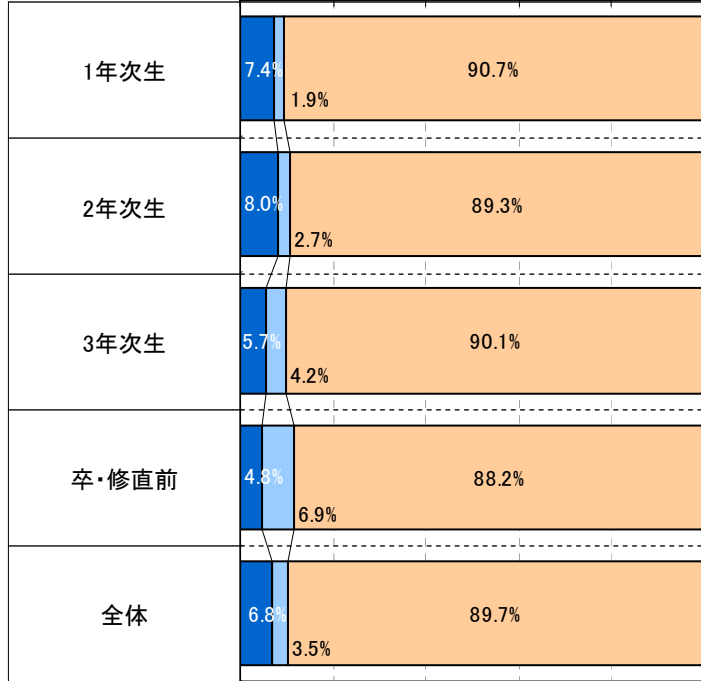


# <2-2> 課外活動への参加状況

## ■ 課外活動への参加状況

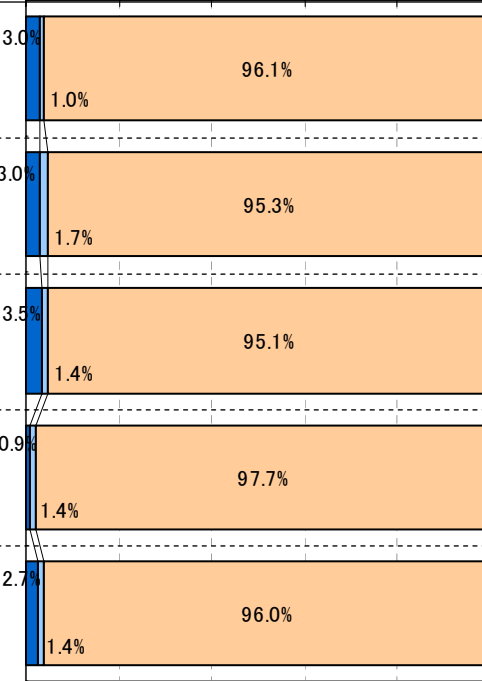
### ■ 夢考房プロジェクトの参加状況

0% 20% 40% 60% 80% 100%



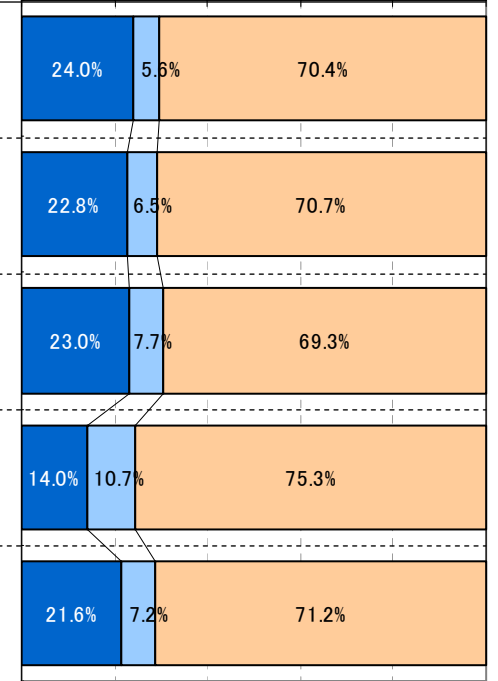
### ■ GP活動の参加状況

0% 20% 40% 60% 80% 100%



### ■ クラブ活動の参加状況

0% 20% 40% 60% 80% 100%



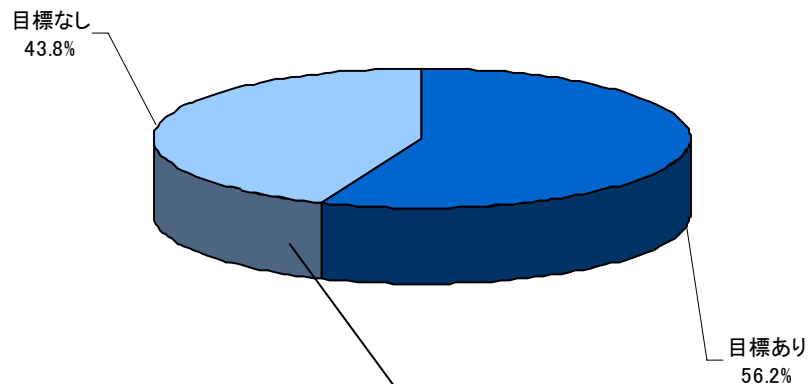
■ 参加している    ■ 以前参加していた    ■ 参加していない

# <3-1>入学前、在学中の目的・目標意識

## ■在学生全体の入試前後の目的意識

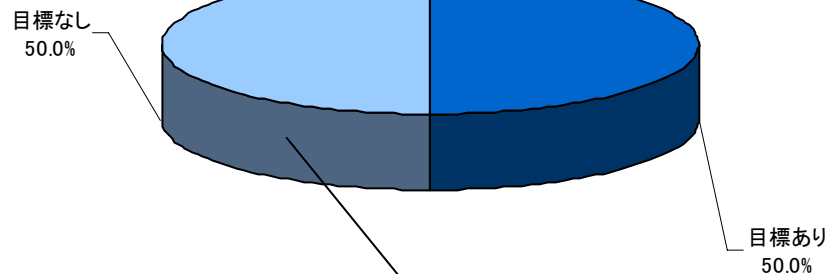
- 入学前に「大学に入ってこれがやりたい」という「目的・目標」を持っていましたか？と聞いたところ、「目標あり」は56.2%であり、「目標なし」は43.8%であった。「目標あり」が半数をわずかに超えていたが、目標を持たないまま入学してきた学生は少なくなく、早い時期にしっかりと目標を持たせることが重要と言える。
- 次に、在学中、大学生活を送る上で何らかの「目的・目標」を持っていましたか？という質問に対しては、「目標あり」と「目標なし」は丁度半々となっており、在学中に目標を持っていた学生は半数にとどまっていることが分かった。

■入学前の大学での目的・目標意識(在学生全体)



4割は目標を持たないまま入学

■現在の大学生活での目的・目標意識(在学生全体)



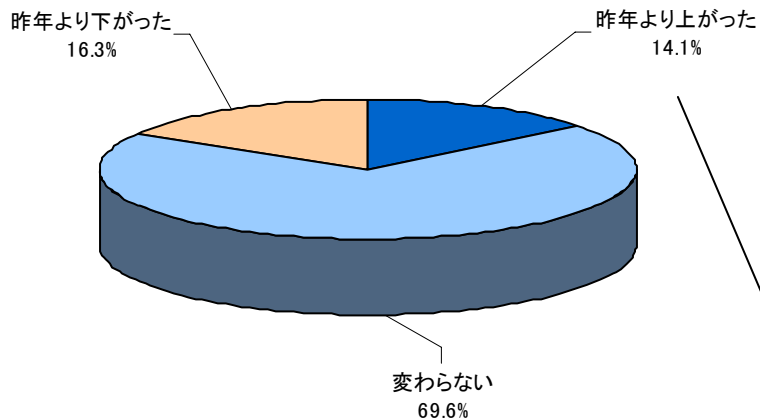
現段階で半数は目標を持っていない

# <4-1>KITの総合満足度

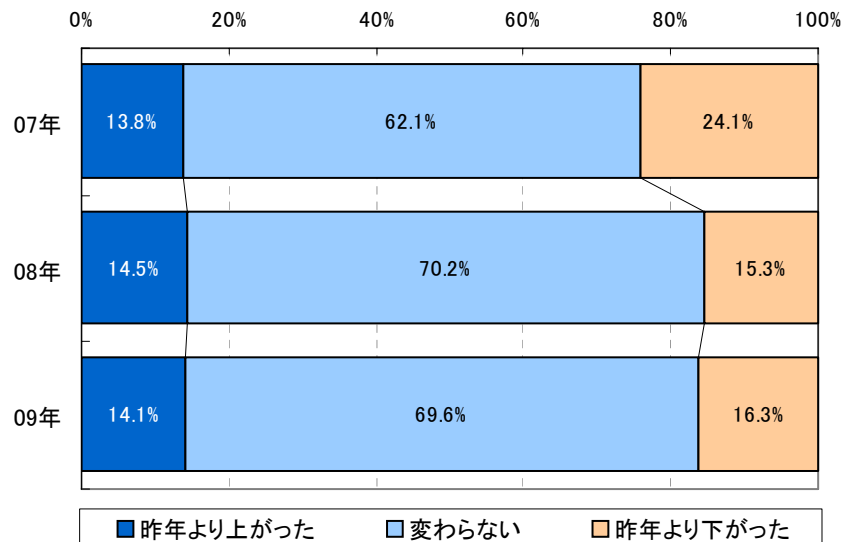
## ■全体傾向と年度別比較

- KITの満足度は昨年との比較で聞いているが、「総合満足度(KIT全体に対する満足度)」では「昨年より上がった」が14.1%、「昨年より下がった」が16.3%、「変わらない」が69.6%であり、わずかではあるが「昨年より上がった」より「昨年より下がった」の方が多かった。
- 07年からの変化を見ると、07年は「昨年より下がった」が24.1%と多かったが、08年と09年はほぼ同じ傾向であり、総合満足度に関しては大きな変化はないと言える。
- 全体を見ると、在学生の7割は満足度は変わらないと答えており、大学が大きく変化しているとは感じていないようである。ただし、「昨年より上がった」と「昨年より下がった」は各々15%程度あり、この意見は何に関する変化を指しているのか、しっかり把握していく必要があると言える。

■KITの総合満足度(昨年からの変化、在学生全体)



■KITの総合満足度 年度別比較(在学生全体)



満足度増加(14.1%) < 満足度低下(16.3%)

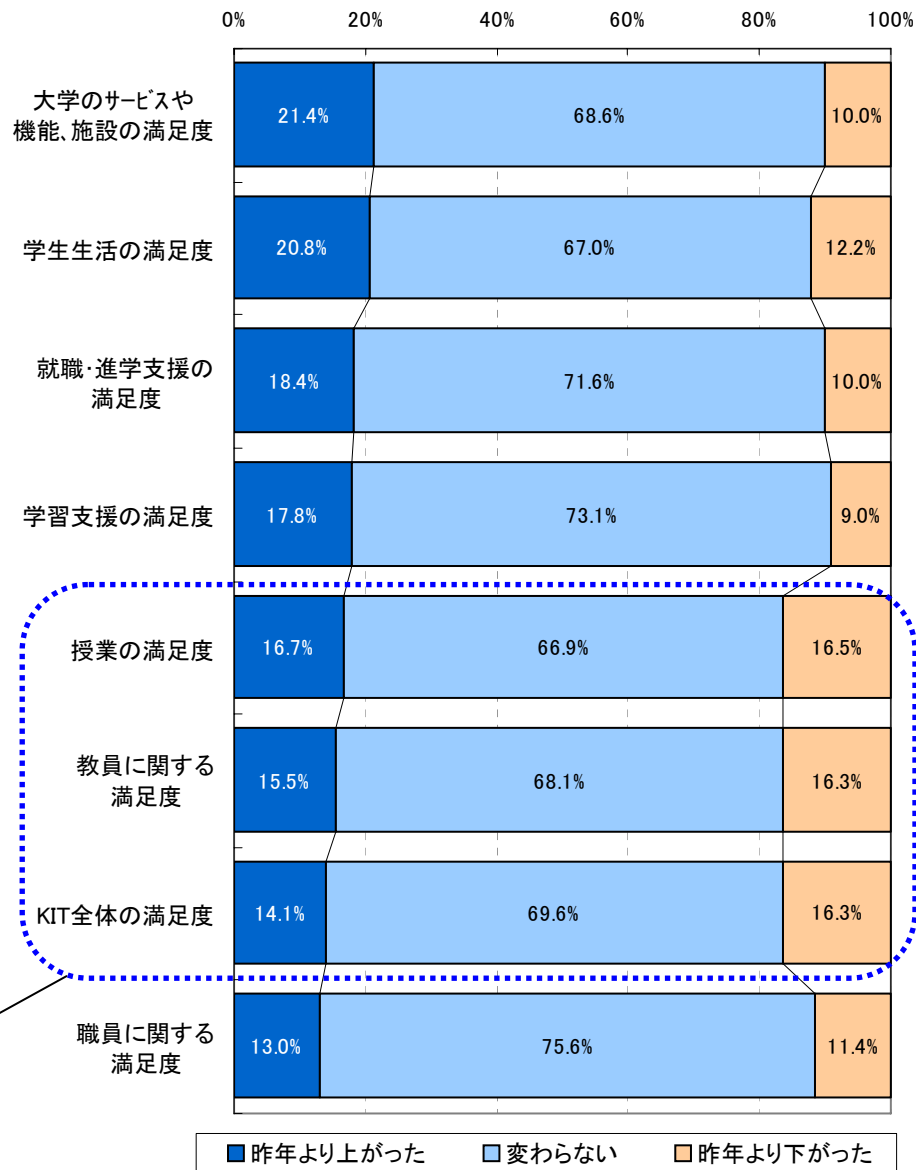
「上がった」と「下がった」が  
ほぼ同割合

# <4-2>分野別の満足度

## ■分野別満足度

- 「KIT全体の満足度」も含めて、大学の機能別に8つの満足度に関して、「昨年との差」を聞いた。グラフは「昨年より上がった」の大きいものから並べている。
- 全体を見ると、少しずつ違いはあるものの「変わらない」が7割前後見られ、どの分野に置いても7割の学生は昨年並みであったと感じているようであった。
- 割合としては少ないものの、昨年と比べて満足度が最も上がっていたのは「大学のサービスや機能、施設の満足度」であり、21.4%は「昨年より上がった」と感じていた。次いで、「学生生活」「就職・進学支援」「学習支援」と続いていた。
- 一方、最も低かったのは「職員に関する満足度」であり、「KIT全体の満足度」「教員に関する満足度」も低かった。
- 「昨年より下がった」割合の大きな項目を見ると、「授業」「教員」「KIT全体」が16%台であり、「教員」「KIT全体」では「上がった」よりも「下がった」が大きく、満足度は低下していると言える。

### ■分野別の満足度(在学生全体)



「昨年より下がった」が「上がった」を上回る

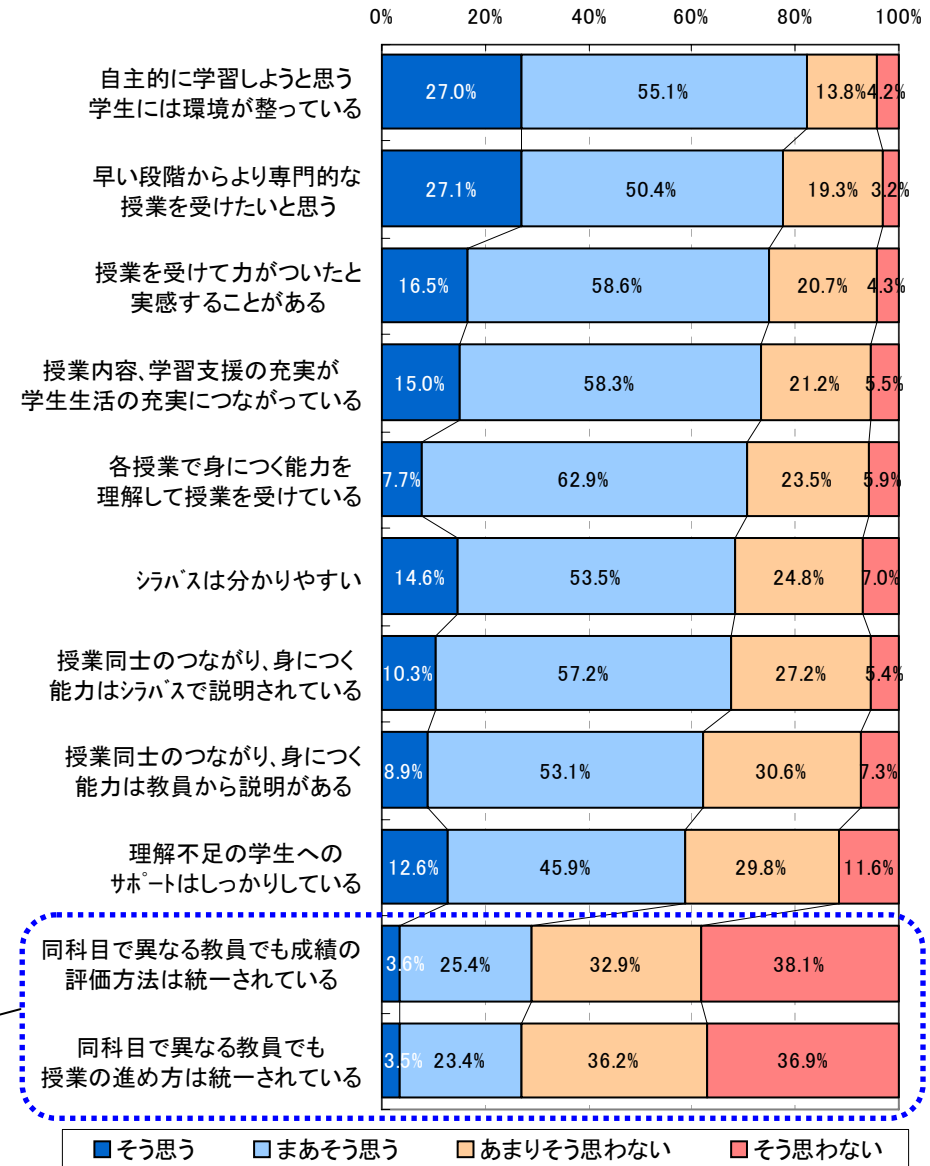
# <5-1>授業の進め方の評価

## ■授業の進め方の評価

- 授業の進め方に関しては今回より設問を見直し、学習のための環境やサポートツール類などに関して11の項目を聞いた。
- 「そう思う」と「まあそう思う」の合計である肯定的な意見の多いものから順に並べているが、最も肯定的な意見が多かったのは「自主的に学習しようと思う学生には環境が整っている」で、82.1%が肯定的であり、環境が整っているという実感はあるようであった。
- 次に「早い段階からより専門的な授業を受けたいと思う」という要望が多く、77.5%が肯定的であった。
- 上記以降は「授業を受けて力がついたら実感することがある」「授業内容、学習支援の充実が学生生活の充実につながっている」と続いており、これらが学生の実感だと思われる。
- 以前からの仮説として「各授業が全体カリキュラムの中でどこに位置しているのか理解できていないのではないか？」というものがあったが、「各授業で身につく能力を理解して授業を受けている」では70.6%が肯定的であり、「授業同士のつながり、身につく能力はシラバスで説明されている」では67.5%、「授業同士のつながり、身につく能力は教員から説明がある」では62.0%が肯定的な意見であり、3～4割の学生は事前理解が十分でないと言える。
- 一方、課題とされるのは「同科目で異なる教員でも授業の進め方は統一されている」「同科目で異なる教員でも成績の評価方法は統一されている」であり、7割以上が否定的であった。
- 同科目で異なる教員の対応に対する不満は以前から聞かれる課題であるが、数値的には7割以上の学生が不満を持っていることが確認できた。

「同科目で異なる教員」の対応に大きな不満がある

## ■授業の進め方の評価（在学生全体）



# <5-2> 学習支援の利用状況

## ■ 学習支援の利用経験者割合

- 学習支援策やツール類に関しては、利用経験と評価を聞いているが、まず利用経験を見ると右記のようになる。
- 最も利用率が高いのは「学習支援計画書」の89.7%であった。次いで「修学アドバイザーとの面談」が76.6%、オフィスアワーが75.1%、「キャンパスノート」が72.4%であり、ここまでの4項目は7割以上の利用率であった。
- 一方、最も利用率が低かったのは「海外研修・留学」であり利用経験者は3.2%であった。そして、「夢考房41号館」が26.9%、「進路開発センタースタッフとの相談」が33.4%、「自己開発センター」が39.9%であり、ここまでの4項目の利用率は4割未満であった。
- 「夢考房41号館」の利用率は26.9%で、「夢考房26号館」も43.9%と半数に至っておらず、KITを代表する施設であるが利用率はそれほど高くないようであった。
- 「夢考房26号館」「夢考房41号館」「自己開発センター」の3つの利用率は前回調査でも聞いているため比較を行ったが、「夢考房」の2つは利用率が下がっていた。聞き方が違うことによる影響も考えられるが、数値では利用率の減少が確認できた。

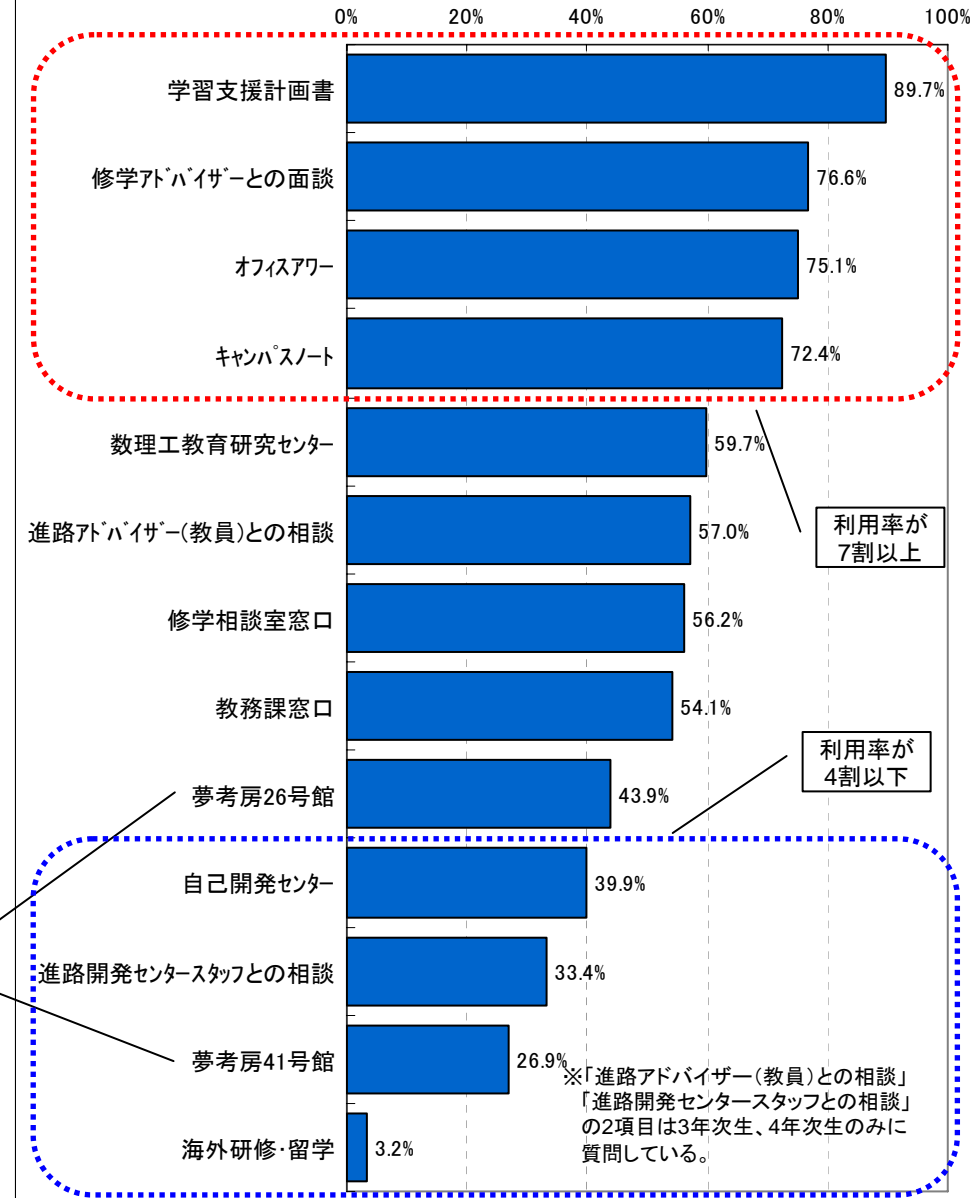
## ■ 2008年度調査との比較

	2008年	2009年 (今回)
夢考房26号館	47.5%	43.9%
夢考房41号館	30.5%	26.9%
自己開発センター	39.4%	39.9%

※前回と比較できるのは上記の3項目のみ。

「夢考房」の利用率は5割に届かない

## ■ 学習支援の利用経験者割合 (在学生全体)



# <5-3> 学習支援の評価

## ■ 学習支援の評価

- 各学習支援策やツール類の利用者に対して、役立っているかどうかの評価を聞いた。
- 「役立っている」と「まあ役立っている」の合計で見ると、最も役立っていると評価されていたのは「夢考房26号館」であった。この利用率は43.9%とそれほど高くないが、利用者からの評価は非常に高いことが分かる。
- 次いで「自己開発センター」「進路アドバイザーとの相談」「オフィスアワー」と続いているが、いずれも評価は高く、すべての項目で8割以上が役立っていると答えていた。
- 最も評価が低いのは「キャンパスノート」であったが、これも83.1%が肯定的な評価であり、評価は決して低いものではなかった。
- これらを見ると、現在の学習支援策は利用率の差はあるものの、利用者からの評価は概ね高く、内容的には大きな問題はなさそうであった。
- 3つの項目に関しては前回調査との比較が可能であるが、これらを見ると、いずれも前回の評価を上回っており、聞き方は異なるものの数字的には良い評価になっていると言える。

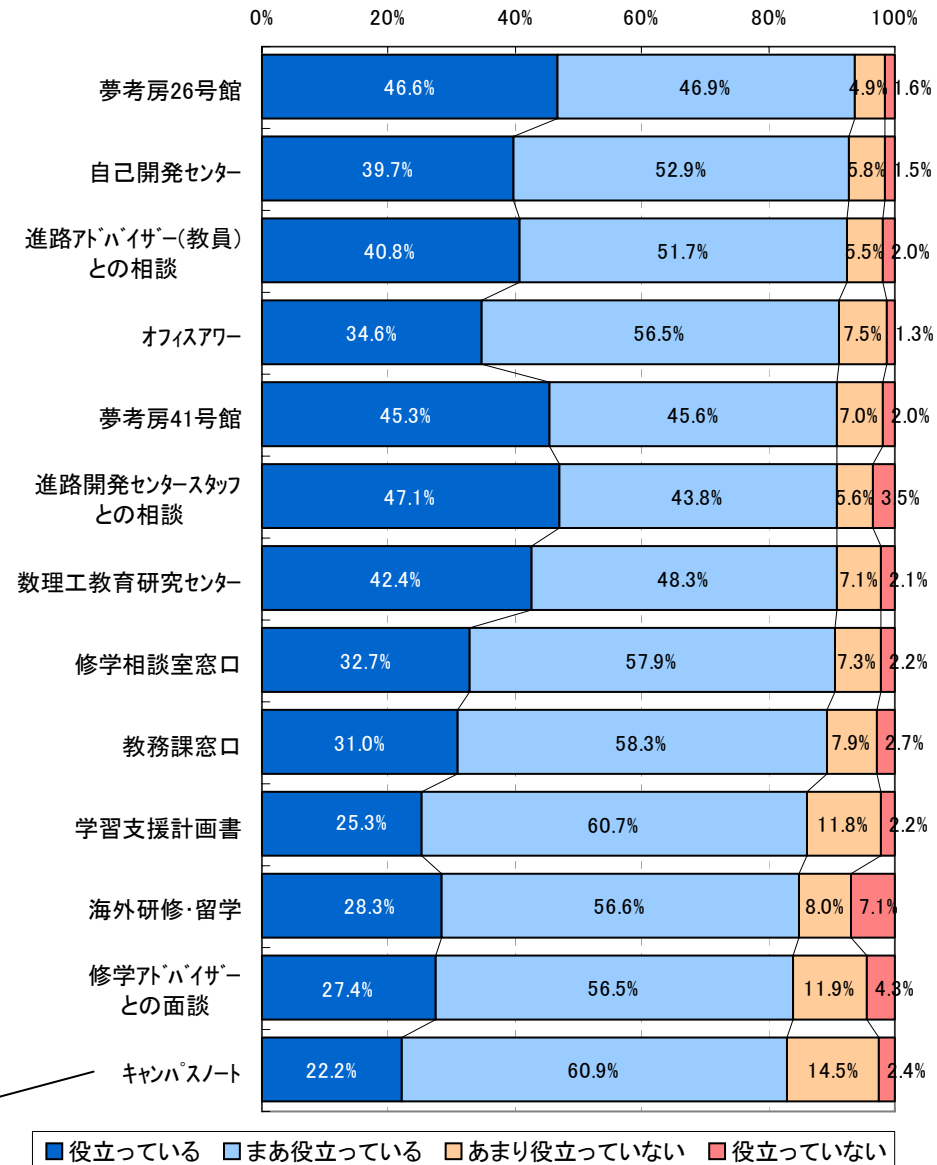
## ■ 2008年度調査との比較

	2008年	2009年 (今回)
夢考房26号館	89.4%	93.6%
夢考房41号館	87.9%	91.0%
自己開発センター	90.5%	92.7%

※上記は「役立っている」と「まあ役立っている」の合計。  
 ※前回と比較できるのは上記の3項目のみ。

最も評価が低いものでも  
 8割以上は肯定的な評価

## ■ 学習支援の評価(在学生全体)



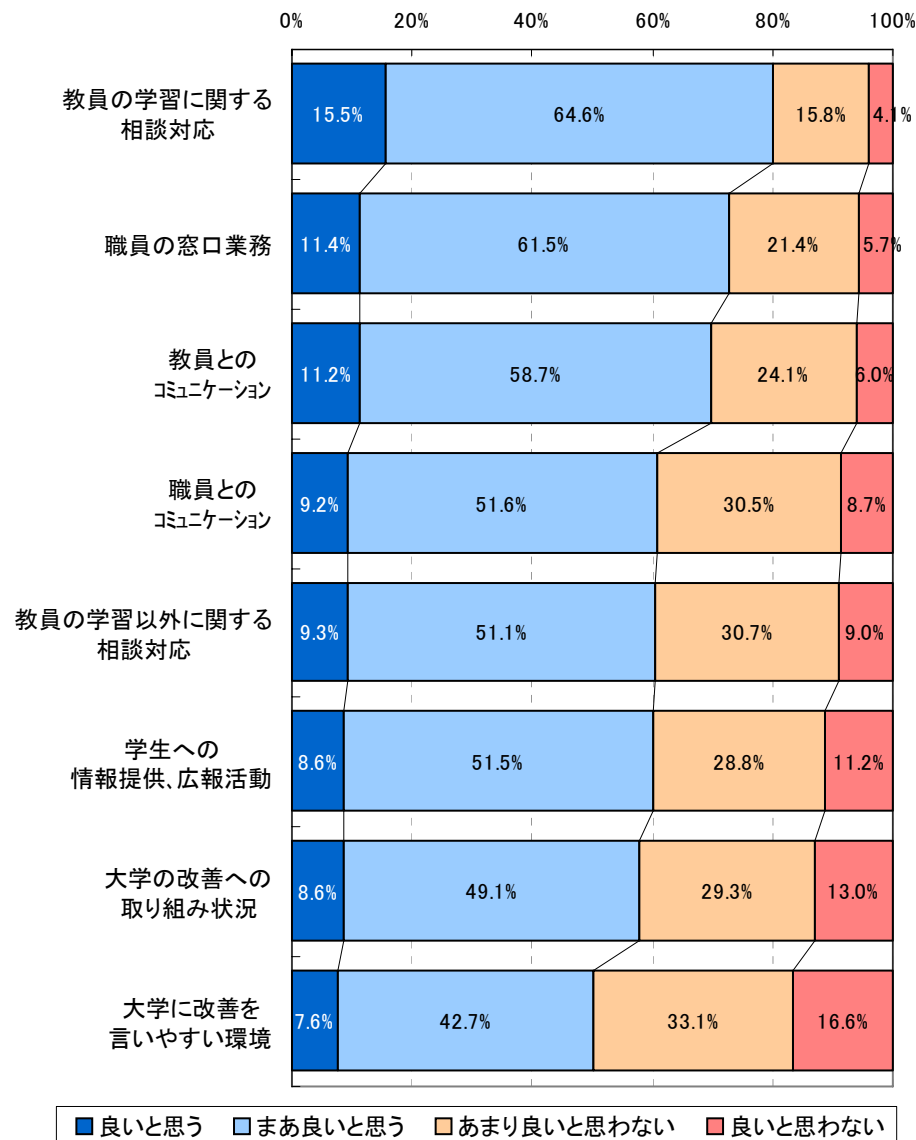
■ 役に立っている ■ まあ役に立っている ■ あまり役に立っていない ■ 役に立っていない

# <6-1>教職員と大学の改善取り組み状況の評価

## ■教職員と大学の改善取り組み状況の評価

- 教職員に対する評価と、大学の改善への取り組み状況の評価に関して8項目聞いた。これらは今回新設した設問となる。
- 「良いと思う」と「まあ良いと思う」の合計で見ると、最も評価が高かったのは「教員の学習に関する相談対応」であり、80.1%が良いという評価であった。
- 次いで、「職員の窓口業務」では72.9%、「教員とのコミュニケーション」では69.9%、「職員とのコミュニケーション」では60.8%が肯定的な意見であった。
- 教職員に関する質問では、「教員の学習以外に関する相談対応」で肯定的な意見が60.4%であり、教員の他の項目と比べるとやや低いものの、全体として6割～8割の学生は教職員の対応状況は良いと評価していた。
- 最も評価が低かったのは「大学に改善を言いやすい環境」であり、肯定的な意見は50.3%であった。
- 上記に次いで低かった項目は「大学の改善への取り組み状況」にあり、肯定的な意見は57.7%であった。続いて「学生への情報提供、広報活動」では60.1%であり、4割以上の学生が大学の取り組みに物足りなさを感じていると言える。

■教職員と大学の改善取り組み状況の評価  
(在学生全体)

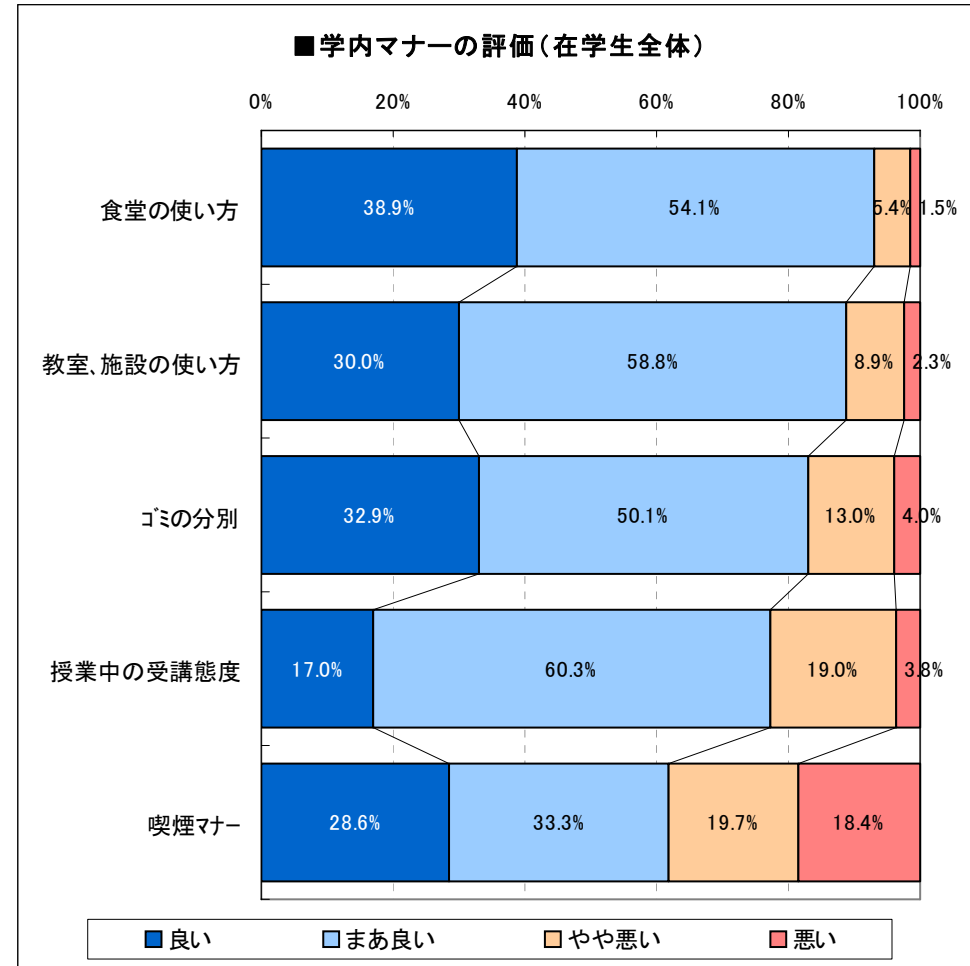




# <6-2>学内マナーの評価

## ■学内マナーの評価

- 学内マナーに関しては5つの項目を挙げ、「あなた自身の学内マナーはどうか？」と自己評価を聞いている。
- 「良い」と「まあ良い」を合わせた割合で見ると、「食堂の使い方」に関しては93.0%がマナーが良いと自己評価していた。
- 次いで「教室、施設の使い方」では88.8%、「ゴミの分別」では83.0%が良いと自己評価していた。
- 「授業中の受講態度」の評価はやや低く、肯定的な意見は77.3%であった。そして最も厳しく自己評価をしている項目は「喫煙マナー」の61.9%で、4割はマナーが悪いと評価していた。



# <7-1> 食堂、売店の評価

## ■ 在学生の全体評価

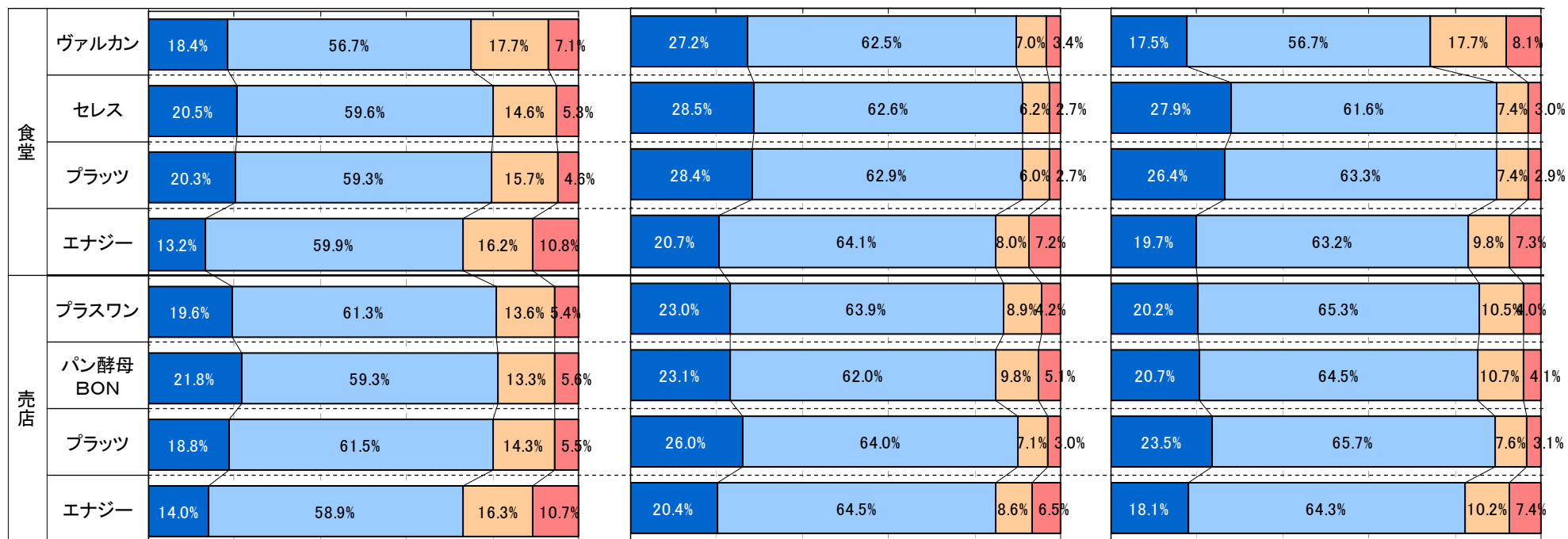
- 学内の食堂、売店に関しては、前回と同様に「品揃え、メニュー」「接客態度」「お店の雰囲気」の3つのポイントで、8施設の評価を聞いた。
- 「満足」と「まあ満足」を合わせた割合で見ると、食堂の中では「ヴァルカン」「エナジー」の評価がやや低めであった。
- 2つの施設は全体的に評価が低い、「ヴァルカン」は特に「お店の雰囲気」の評価の低さが目立っており、「エナジー」は「接客態度」の評価が低めであった。そして、2つの食堂ともに「品揃え、メニュー」の評価がやや低かった。
- 「セレス」と「プラッツ」の2つの食堂の評価はほぼ同じであり、「品揃え、メニュー」は8割、「接客態度」「お店の雰囲気」は9割程度が満足していた。
- 一方、売店では「エナジー」の評価が全体的に低めであり、特に「品揃え、メニュー」「お店の雰囲気」の評価の低さが目立っていた。
- 「プラスワン」「パン酵母BON」「プラッツ」の評価はほぼ同じであったが、「プラッツ」は「接客態度」「お店の雰囲気」の評価がやや高めという特徴が見られた。

■ 品揃え、メニューの満足度

■ 接客態度の満足度

■ お店の雰囲気の満足度

0% 20% 40% 60% 80% 100% 0% 20% 40% 60% 80% 100% 0% 20% 40% 60% 80% 100%



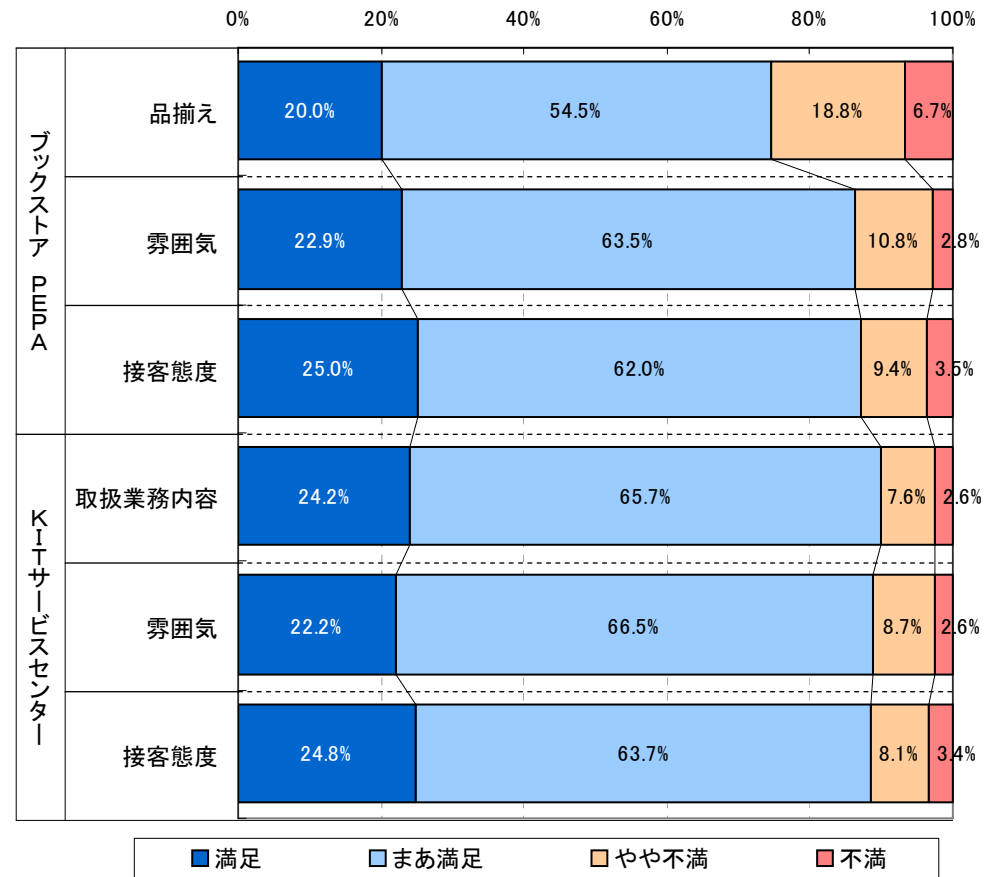
■ 満足 ■ まあ満足 ■ やや不満 ■ 不満

# <7-2>ブックストアPEPAとKITサービスセンターの評価

## ■ブックストアPEPAとKITサービスセンターの分野別満足度

- 「ブックストアPEPA」と「KITサービスセンター」に関しても、「品揃え・取扱業務内容」「雰囲気」「接客態度」の3項目の評価を聞いた。
- 2つの施設ともに評価は高く、それほど大きな課題はないと思われるが、「ブックストアPEPA」に関しては「品揃え」に関する満足度がやや低く、満足しているという回答は74.5%にとどまった。
- 「ブックストアPEPA」は「雰囲気」「接客態度」ともに9割近くが満足しているという回答であり、これらの点には問題は見られなかった。
- 「KITサービスセンター」は全般的に満足度が高く、「取扱業務内容」についても89.9%が満足しているという回答であり、「雰囲気」「接客態度」もともに、満足しているという回答が9割近かった。

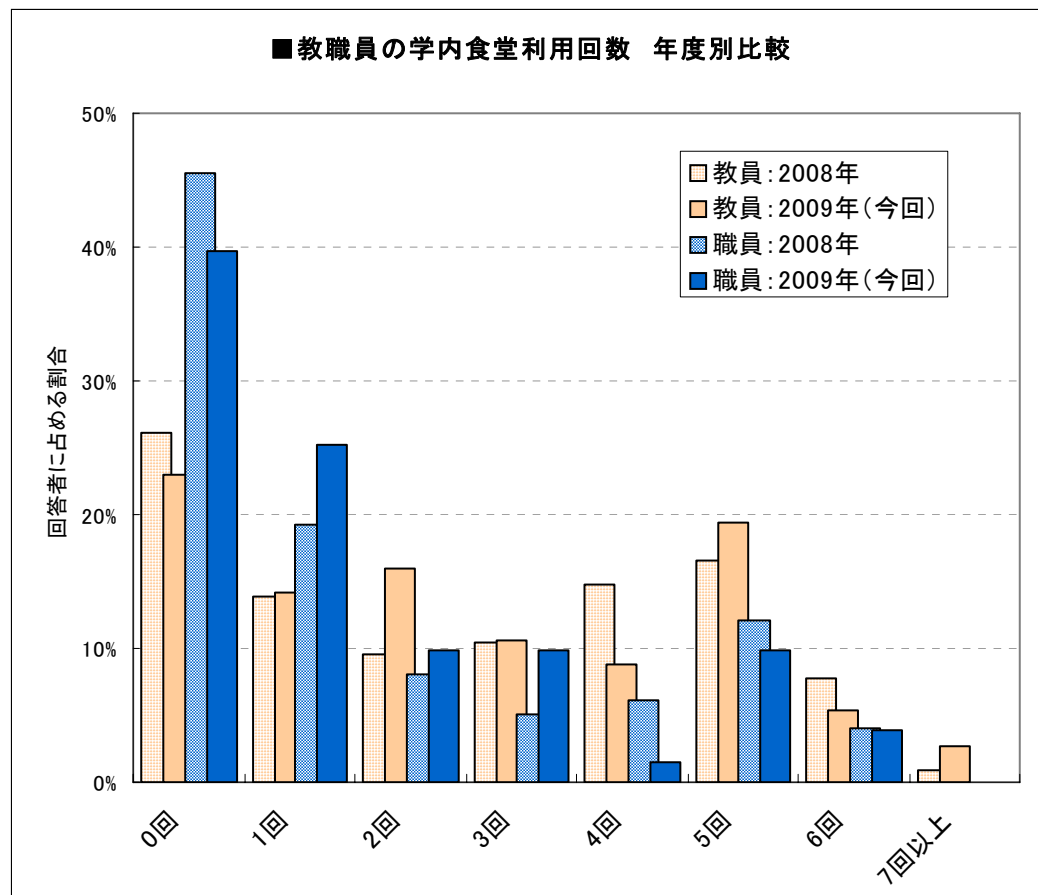
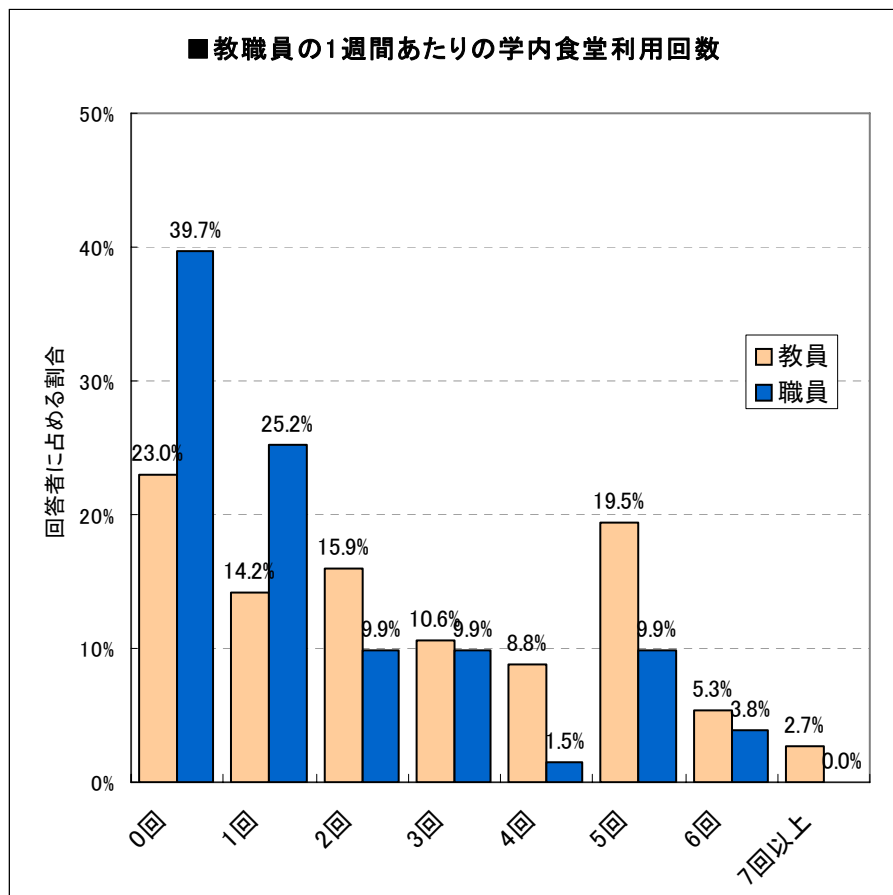
### ■ブックストアとサービスセンターの分野別満足度



# <7-3>教職員の学内食堂利用状況

## ■1週間あたりの学内食堂利用回数

- 「1週間あたりの学内食堂利用回数」を教職員だけに聞いたところ、教員では「0回」が23.0%、「5回」が19.5%となっており、全く利用しない層とほぼ毎日使う層が各々2割程度であることが確認できた。それ以外では「2回」が15.9%、「1回」が14.2%などとばらけており、「0回」を除くと全体の1/4は学内食堂を1週間に1度以上は使っているようであった。
- 一方、職員は「0回」が39.7%と多く、学内食堂を1週間に1度以上使っている割合は6割程度となる。そして、「1回」も25.2%と多く、職員は学内食堂を使う割合がかなり低いことが分かった。
- 前回調査との比較を行ったところ、教員は「0回」が減少して、「2回」「5回」が多くなっており、学内食堂を使う層がやや増加しているようであった。また、職員も「0回」が減少して「1回」「3回」の増加が目立っており、毎日というわけではないが、学内食堂の利用回数は増加していると言える。

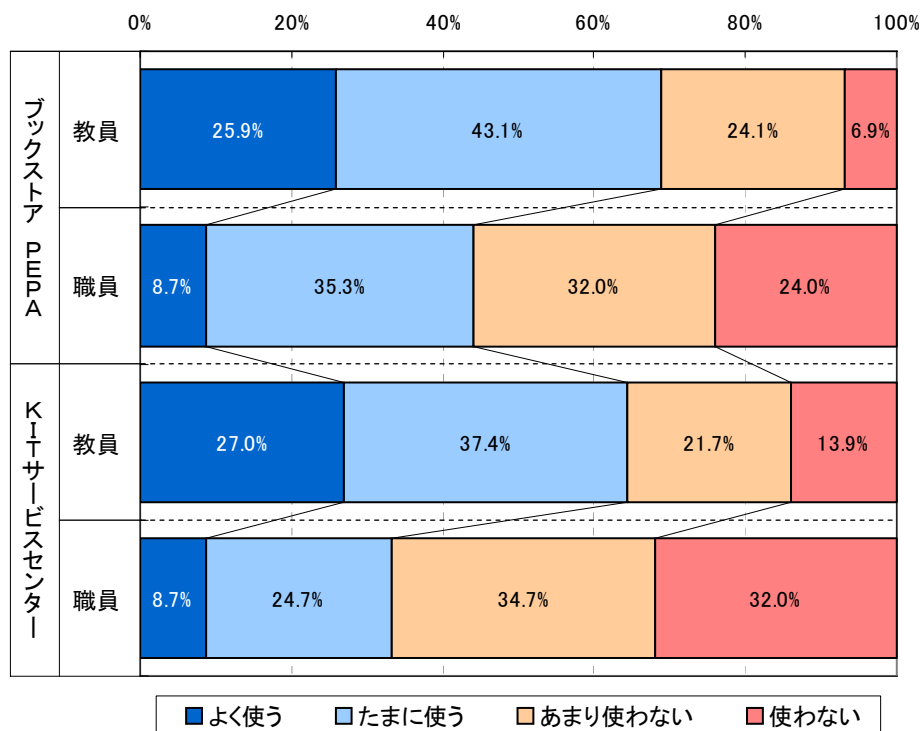


# <7-4>教職員のブックストアPEPA、KITサービスセンター利用状況

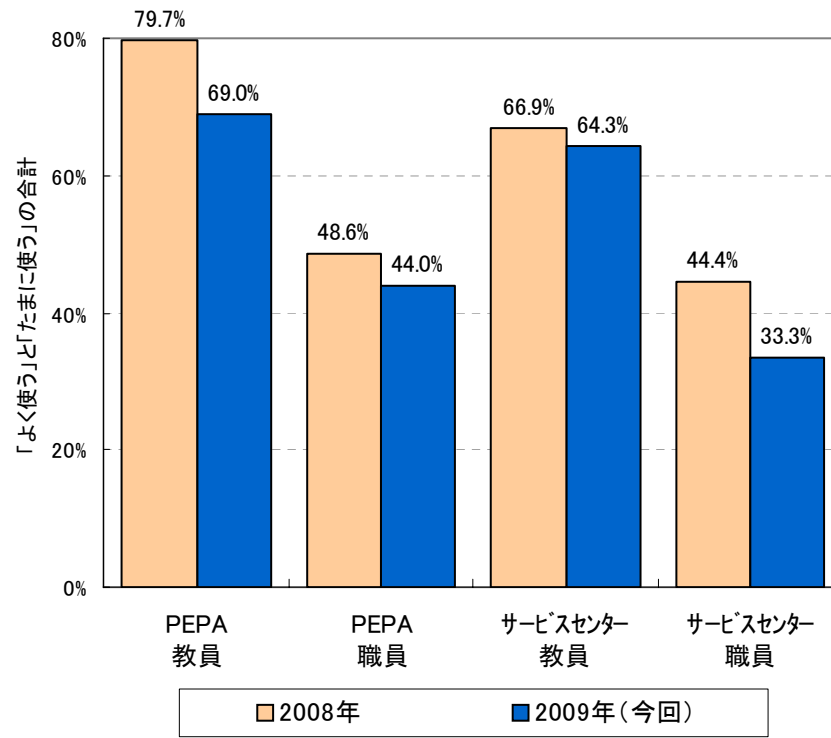
## ■ブックストアPEPAとKITサービスセンターの利用状況

- 教職員の「ブックストアPEPA」と「KITサービスセンター」の利用状況を見たところ、両施設ともに教員の利用率の方が高いことが分かった。
- 「ブックストアPEPA」に関しては、教員では「よく使う」と「たまに使う」の合計が69.0%であり、職員の44.0%を25ポイント上回った。また、「KITサービスセンター」に関しても、教員は64.4%が利用しているが、職員は33.4%であり、差は31ポイントであった。
- 前回調査との差を見ると、両施設ともに教職員の利用は減少しており、特に教員の「ブックストアPEPA」の利用者割合で、10.7ポイント減少していた。また、職員の「KITサービスセンター」の利用者割合は11.1ポイント減少していた。

■PEPAとサービスセンターの利用状況



■PEPAとサービスセンターの利用状況 年度別比較

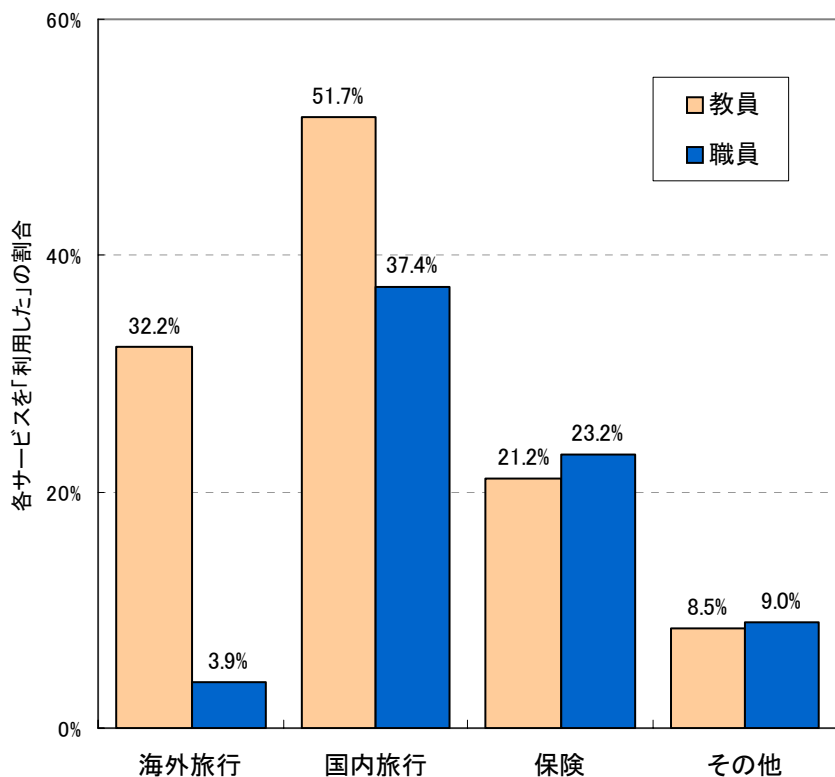


# <7-5>KITサービスセンターの利用目的

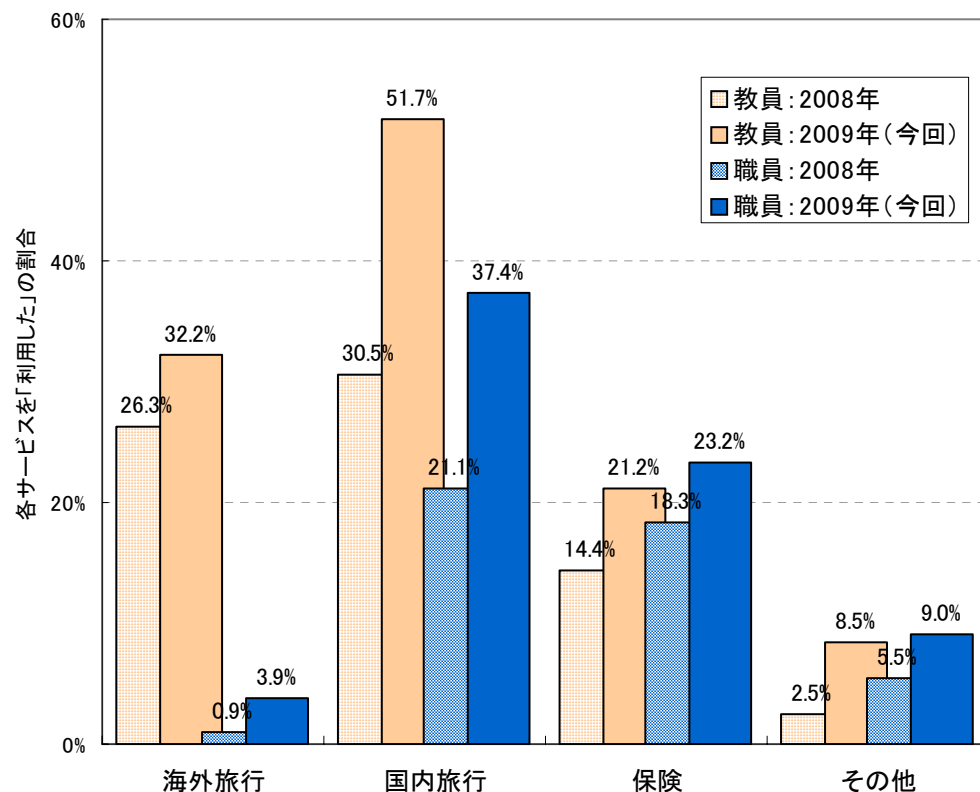
## ■KITサービスセンターの利用目的

- 教職員の「KITサービスセンター」の利用目的を見た。下のタテ棒グラフは教職員の各々を母数として、利用者の割合を算出したものとなる。
- 教員で利用率が高かったのは「国内旅行」と「海外旅行」であり、「国内旅行」での利用者は全体の51.7%、「海外旅行」では32.2%であった。
- 職員でも「国内旅行」の利用者割合は37.4%を占めていたが、「海外旅行」は3.9%で、教員と大きな差がついた。そして、「保険」「その他」に関しては教員と職員との間に差は見られなかった。
- 前回調査との差を見ると、教職員ともにすべての項目で利用者割合が増加していることが確認できた。特に「国内旅行」での増加が大きく、教員では21.2ポイントの上昇、職員では16.3ポイントの上昇であった。

### ■教職員のKITサービスセンター利用目的 (MA)



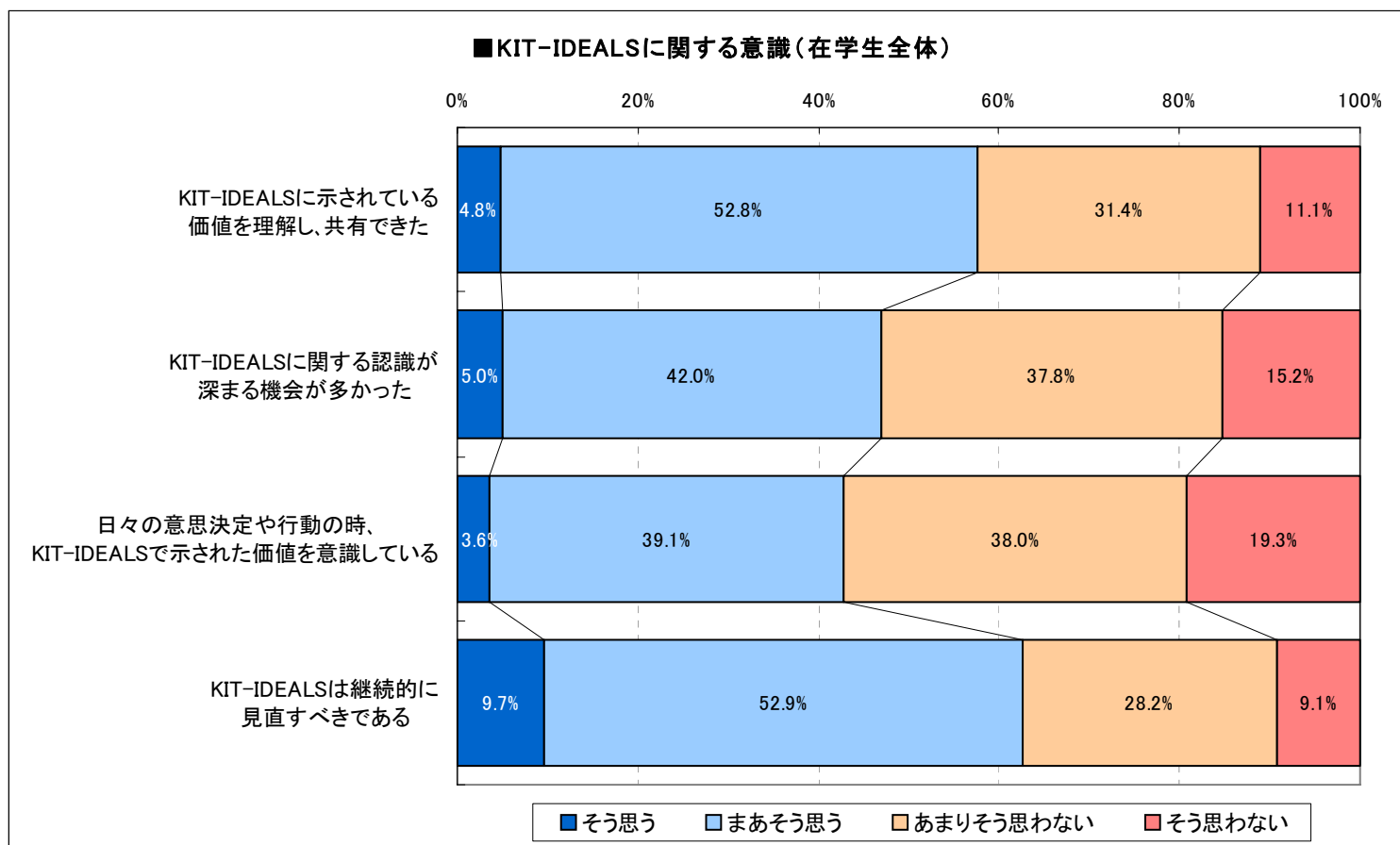
### ■教職員のKITサービスセンター利用目的 年度別比較



# <8-1>KIT-IDEALSに関する意識

## ■KIT-IDEALSに関する意識

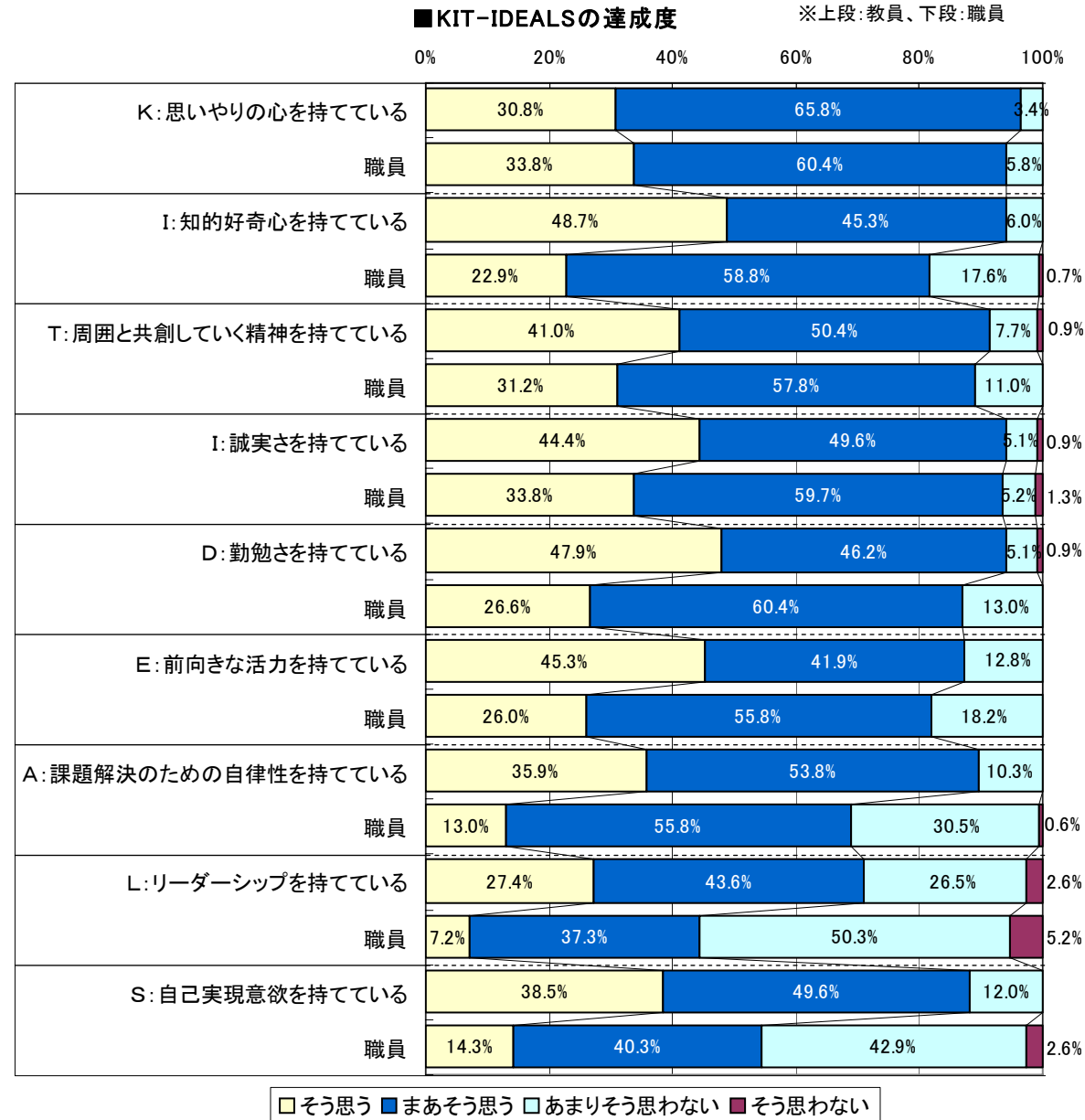
- 在学生のKIT-IDEALSに関する意識を聞いたところ、「KIT-IDEALSに示されている価値を理解し、共有できた」に関しては4.8%が「そう思う」、52.8%が「まあそう思う」であり、合わせると57.6%が価値を理解し共有できたと感じていたようであった。
- 「KIT-IDEALSに関する認識が深まる機会が多かった」では47.0%が肯定的な意見で、「日々の意思決定や行動の時、KIT-IDEALSで示された価値を意識している」では42.7%が肯定的な意見であり、概ね5割程度はKIT-IDEALSを意識して学生生活を送っているようであった。
- 「KIT-IDEALSは継続的に見直すべきである」は肯定的な意見が多いほど、見直す必要があると感じている学生が多いことになるが、「そう思う」が9.7%、「まあそう思う」が52.9%であり、合わせると半数を超える62.6%が見直した方が良く感じていることが分かった。



# <8-2>教職員のKIT-IDEALSの達成度

## ■教職員のKIT-IDEALSの達成度

- 教職員には「KIT-IDEALS」の各項目に関する達成度を聞いている。
- 「そう思う」と「まあそう思う」の合計で比較すると、「K: 思いやりの心を持っている」「I: 知的好奇心を持っている」「T: 周囲と共創していく精神を持っている」「I: 誠実さを持っている」「D: 勤勉さを持っている」「E: 前向きな活力を持っている」までの6項目は、教員、職員ともに8割以上は肯定的な意見であり、比較的達成度が高い項目と言える。
- 達成度が低かったのは「A: 課題解決のための自律性を持っている」「L: リーダーシップを持っている」「S: 自己実現意欲を持っている」の3項目であった。この3項目は「職員」の低さが目立っている。
- 「職員」に関しては「I: 知的好奇心を持っている」も「教員」と比べるとやや低めであった。



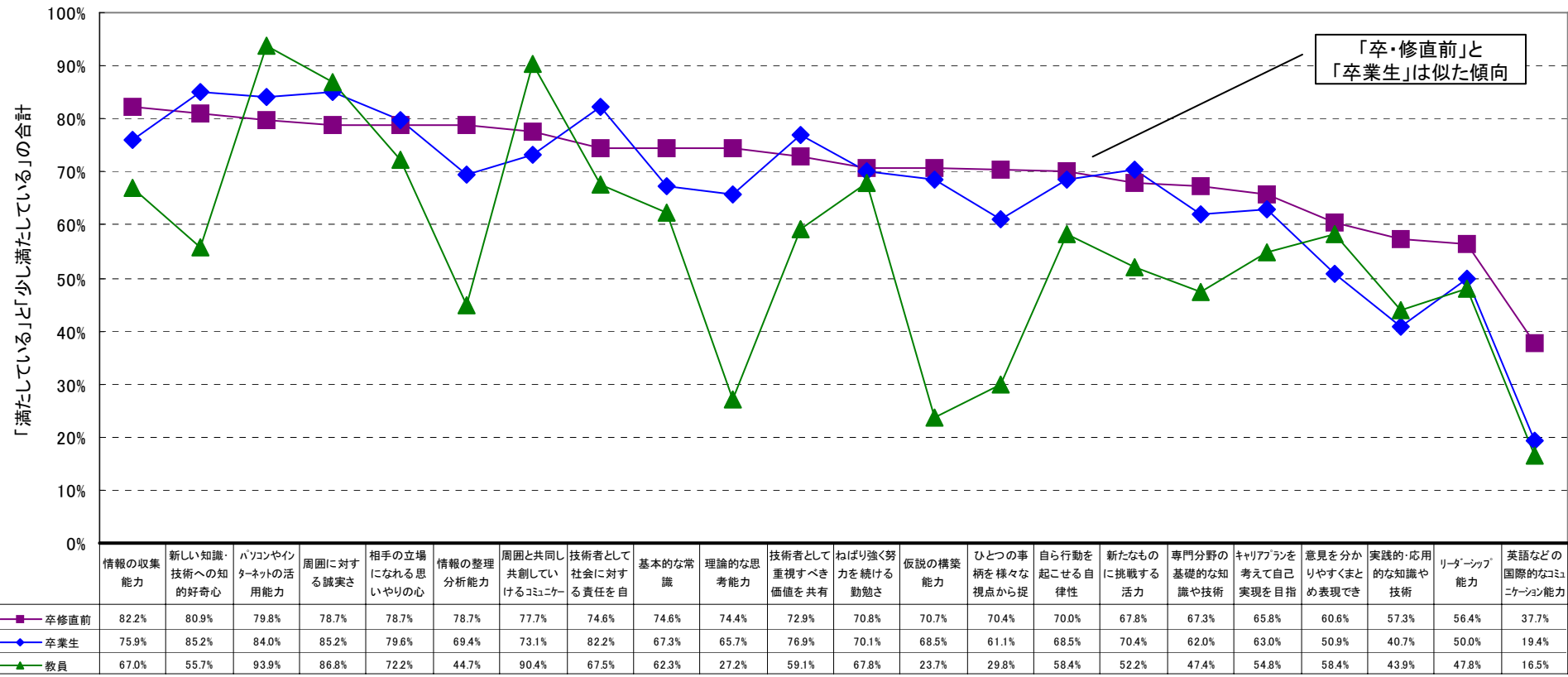


# <9-1>卒業時の能力

## ■卒業時の能力の属性別比較

- 卒業時の能力に関しては「卒・修直前」「卒業生」「教員」の3つの属性に聞いており、その比較を行った。
- 「卒・修直前」の学生が最も高いと自己評価していたのは「情報の収集能力」であり、次いで「新しい知識・技術への知的好奇心」「パソコンやインターネットの活用能力」と続いていた。
- 「卒・修直前」と「卒業生」の意識にはそれほど大きな差はなく似通った傾向となっていたが、「卒業生」は「情報の収集能力」「情報の整理分析能力」「基本的な常識」「理論的な思考能力」などがやや低めであり、これらの能力に関しては学生時代の意識と実態が異なっていたと思われる。
- 「教員」の評価は学生の評価と大きく食い違っており、学生の自己評価よりも全般的に低いものであった。評価が高かったのは「パソコンやインターネットの活用能力」「周囲と共同し共創していけるコミュニケーション能力」の2項目であり、逆に「理論的な思考能力」「仮説の構築能力」「一つの事柄を様々な視点から捉える」「情報の整理分析能力」「新しい知識・技術への知的好奇心」といった点の評価は低かった。

■現在の自分の能力(卒業時の学生の能力) 属性別比較



## ■卒業時の学生の優れている点

- 前項のグラフから、各属性毎に優れているものの上位10項目を抽出すると下記のようになった。
- 「卒・修直前」は前項のグラフと同じ順序となっており、「情報の収集能力」「新しい知識・技術への知的好奇心」「パソコンやインターネットの活用能力」が上位であった。「情報の収集能力」「パソコンやインターネットの活用能力」は3者ともに上位10位に入れており、自他共に認める特徴と言えそうであった。
- その他、「周囲に対する誠実さ」「相手の立場になれる思いやりの心」「周囲と共同し共創していけるコミュニケーション能力」「技術者として社会に対する責任を自覚する能力」も3者ともに優れている点であると感じていた。

### ■卒業時の学生の優れている点 上位10項目

	卒修直前	卒業生	教員
1	情報の収集能力	新しい知識・技術への知的好奇心	パソコンやインターネットの活用能力
2	新しい知識・技術への知的好奇心	周囲に対する誠実さ	周囲と共同し共創していけるコミュニケーション能力
3	パソコンやインターネットの活用能力	パソコンやインターネットの活用能力	周囲に対する誠実さ
4	周囲に対する誠実さ	技術者として社会に対する責任を自覚する能力	相手の立場になれる思いやりの心
5	相手の立場になれる思いやりの心	相手の立場になれる思いやりの心	ねばり強く努力を続ける勤勉さ
6	情報の整理分析能力	技術者として重視すべき価値を共有し、これらに基づいた行動	技術者として社会に対する責任を自覚する能力
7	周囲と共同し共創していけるコミュニケーション能力	情報の収集能力	情報の収集能力
8	技術者として社会に対する責任を自覚する能力	周囲と共同し共創していけるコミュニケーション能力	基本的な常識
9	基本的な常識	新たなものに挑戦する活力	技術者として重視すべき価値を共有し、これらに基づいた行動
10	理論的な思考能力	ねばり強く努力を続ける勤勉さ	自ら行動を起こせる自律性

# <10-1>新入生のプロフィール

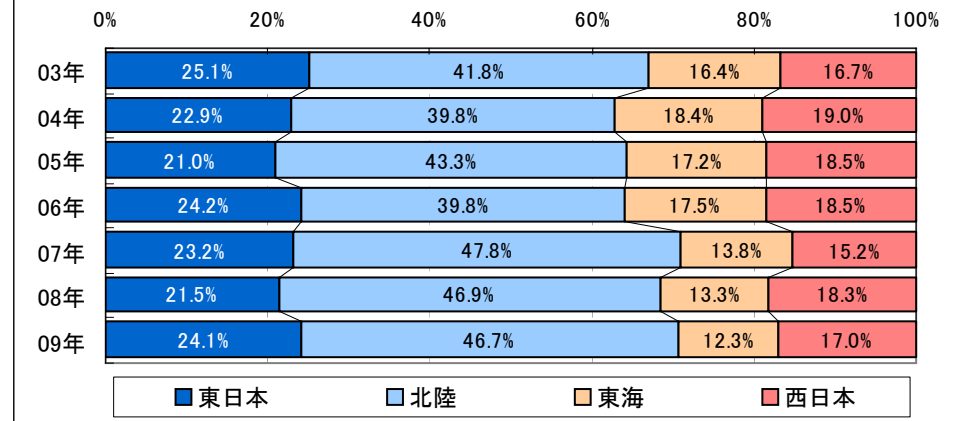
## ■新入生の学部・学科、出身地

- 平成21年度入学でアンケートに回答した新入生は1568人であり、「工学部」が44.0%と最も多く、「情報学部」が27.7%、「環境・建築学部」が15.3%、「バイオ・化学部」が12.8%という割合であった。
- 学科としては「機械工学科」が16.9%と最も多く、「情報工学科」が12.2%、「電気電子工学科」が11.0%と続いていた。
- 出身地域を大まかに分けると「北陸」が46.7%と半数近く、「東日本」が24.1%で続いており、前回調査と比べると「東日本」がやや増加し、「東海」「西日本」が減少しており、特に「東海」は調査開始時より継続的に減少する傾向が見られた。
- 地方の詳細を見ると、「北陸」に次いで「甲信越」「東海」が多かった。経年変化では、「東海」の他にも「北海道・東北」「関西」が継続的に減少する傾向が見られた。

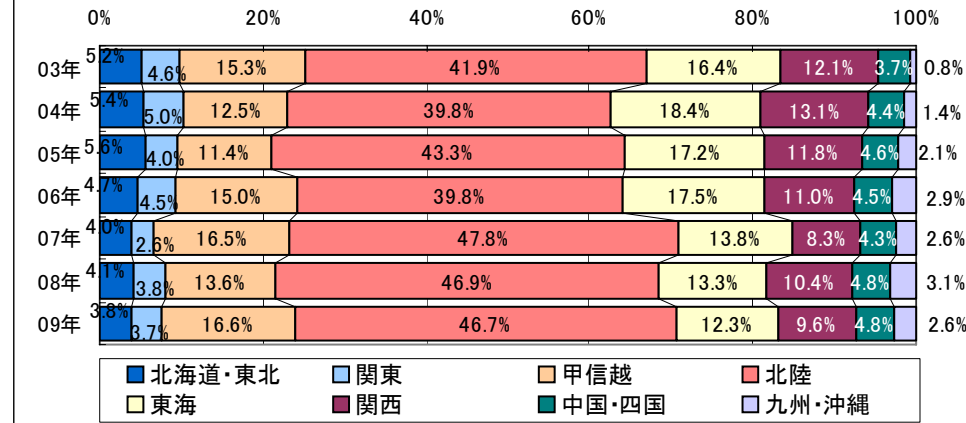
## ■学部・学科割合

学部	学科	回答者数	割合	回答者数	割合
工学部	機械工学科	690	44.0%	265	16.9%
	ロボティクス学科			120	7.7%
	航空システム工学科			78	5.0%
	電気電子工学科			173	11.0%
	情報通信工学科			54	3.4%
情報学部	情報工学科	434	27.7%	192	12.2%
	メディア情報学科			146	9.3%
	心理情報学科			57	3.6%
	情報経営学科			39	2.5%
環境・建築学部	環境土木工学科	240	15.3%	54	3.4%
	建築学科			152	9.7%
	建築都市デザイン学科			34	2.2%
バイオ・化学部	応用バイオ学科	200	12.8%	103	6.6%
	応用化学科			97	6.2%
	無回答	4	0.3%	4	0.3%
	合計	1568	100.0%	1568	100.0%

## ■新入生の出身地大分類比較



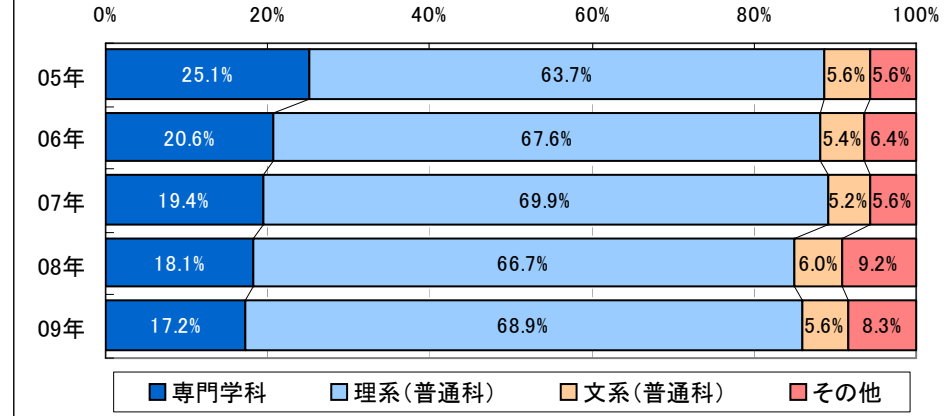
## ■新入生の出身地詳細分類比較



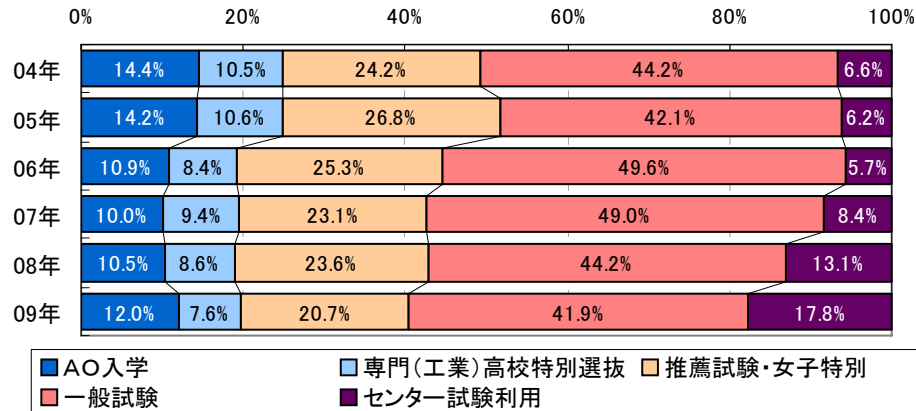
## ■新入生入試の種類、高校課程、現浪

- 入試の種類では「一般試験」が41.9%と最も多く、「推薦試験・女子特別」「センター試験利用」が続いていた。経年変化を見ると、「センター試験利用」が確実に増加している傾向が見られた。
- 出身高校の課程では「理系」が68.9%と最も多く、徐々にではあるが増加する傾向があり、逆に「専門学科」は継続的に減少する傾向が見られた。
- 現浪の比較を見ると、「現役入学」が93.2%と大多数を占めており、目立った経年変化は見られなかった。
- 次項で新入生の出身県一覧をまとめているが、最も多いのは地元の「石川県」であり、次いで「富山県」「新潟県」「福井県」「長野県」と続いていた。

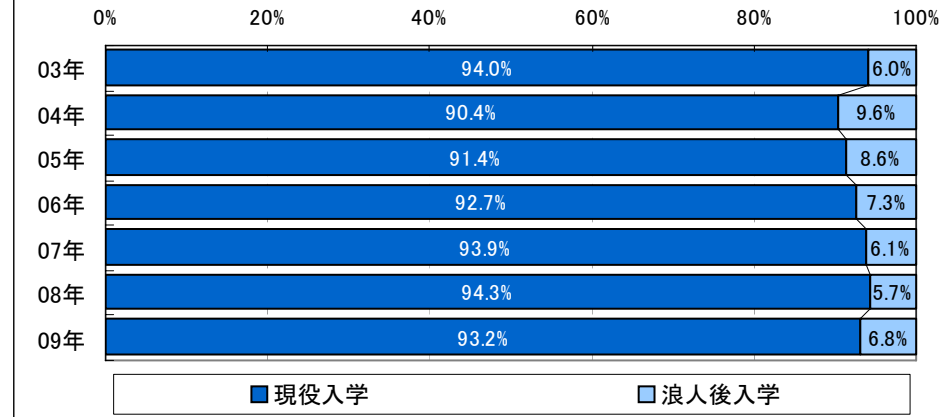
### ■新入生の出身高校課程比較



### ■入試の種類



### ■新入生の入学時の現浪比較



■過去3年間の出身地一覽

■07年 出身地一覽

都道府県	人数	割合	大分類	詳細分類
北海道	19	1.2%	東日本	北海道・東北
青森県	1	0.1%		
岩手県	6	0.4%		
宮城県	7	0.4%		
秋田県	11	0.7%		
山形県	13	0.8%		
福島県	9	0.5%		
茨城県	6	0.4%		
栃木県	6	0.4%		
群馬県	13	0.8%		
埼玉県	0	0.0%		
千葉県	3	0.2%		
東京都	6	0.4%		
神奈川県	9	0.5%		
新潟県	156	9.5%		
山梨県	2	0.1%		
長野県	113	6.9%		
富山県	199	12.1%		
石川県	470	28.6%		
福井県	116	7.1%		
岐阜県	40	2.4%		
静岡県	90	5.5%		
愛知県	64	3.9%		
三重県	33	2.0%		
滋賀県	32	1.9%		
京都府	23	1.4%		
大阪府	19	1.2%		
兵庫県	50	3.0%		
奈良県	5	0.3%		
和歌山県	8	0.5%		
鳥取県	8	0.5%		
島根県	10	0.6%		
岡山県	16	1.0%		
広島県	14	0.9%		
山口県	6	0.4%		
徳島県	4	0.2%		
香川県	5	0.3%		
愛媛県	4	0.2%		
高知県	3	0.2%		
福岡県	16	1.0%		
佐賀県	3	0.2%		
長崎県	3	0.2%		
熊本県	3	0.2%		
大分県	0	0.0%		
宮崎県	4	0.2%		
鹿児島	2	0.1%		
沖縄県	11	0.7%		
不明	1	0.1%		
合計	1642	100.0%	1642 100.0%	1642 100.0%

■08年 出身地一覽

都道府県	人数	割合	大分類	詳細分類
北海道	15	0.9%	東日本	北海道・東北
青森県	5	0.3%		
岩手県	2	0.1%		
宮城県	12	0.7%		
秋田県	11	0.7%		
山形県	14	0.8%		
福島県	9	0.5%		
茨城県	2	0.1%		
栃木県	13	0.8%		
群馬県	25	1.5%		
埼玉県	6	0.4%		
千葉県	6	0.4%		
東京都	8	0.5%		
神奈川県	3	0.2%		
新潟県	152	9.2%		
山梨県	9	0.5%		
長野県	62	3.8%		
富山県	213	12.9%		
石川県	447	27.1%		
福井県	112	6.8%		
岐阜県	55	3.3%		
静岡県	61	3.7%		
愛知県	50	3.0%		
三重県	52	3.1%		
滋賀県	36	2.2%		
京都府	33	2.0%		
大阪府	35	2.1%		
兵庫県	45	2.7%		
奈良県	7	0.4%		
和歌山県	15	0.9%		
鳥取県	9	0.5%		
島根県	8	0.5%		
岡山県	17	1.0%		
広島県	14	0.8%		
山口県	10	0.6%		
徳島県	9	0.5%		
香川県	4	0.2%		
愛媛県	8	0.5%		
高知県	0	0.0%		
福岡県	24	1.5%		
佐賀県	1	0.1%		
長崎県	1	0.1%		
熊本県	2	0.1%		
大分県	3	0.2%		
宮崎県	8	0.5%		
鹿児島	4	0.2%		
沖縄県	8	0.5%		
不明	7	0.4%		
合計	1652	100.0%	1652 100.0%	1652 100.0%

■09年 出身地一覽

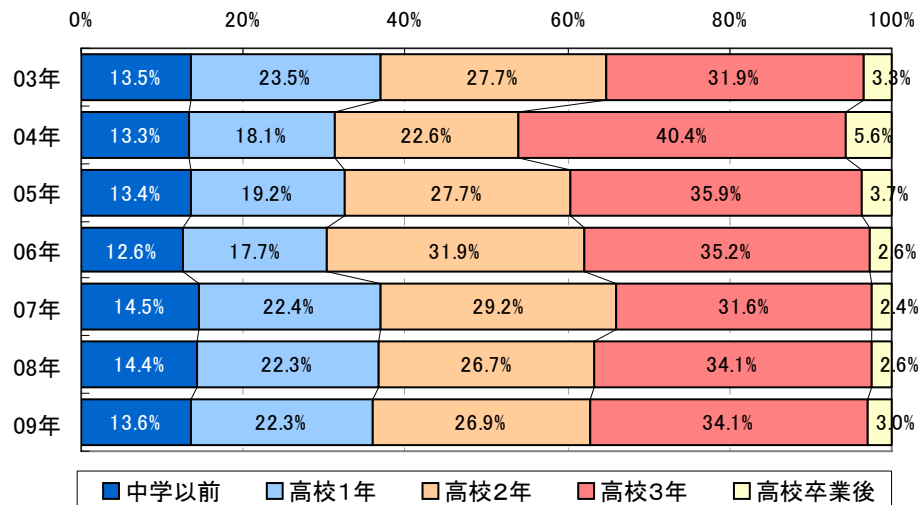
都道府県	人数	割合	大分類	詳細分類
北海道	13	0.8%	東日本	北海道・東北
青森県	4	0.3%		
岩手県	1	0.1%		
宮城県	3	0.2%		
秋田県	16	1.0%		
山形県	18	1.1%		
福島県	4	0.3%		
茨城県	12	0.8%		
栃木県	7	0.4%		
群馬県	20	1.3%		
埼玉県	2	0.1%		
千葉県	7	0.4%		
東京都	5	0.3%		
神奈川県	4	0.3%		
新潟県	131	8.4%		
山梨県	14	0.9%		
長野県	113	7.2%		
富山県	208	13.3%		
石川県	398	25.4%		
福井県	119	7.6%		
岐阜県	50	3.2%		
静岡県	62	4.0%		
愛知県	57	3.6%		
三重県	22	1.4%		
滋賀県	43	2.7%		
京都府	33	2.1%		
大阪府	18	1.1%		
兵庫県	43	2.7%		
奈良県	4	0.3%		
和歌山県	8	0.5%		
鳥取県	8	0.5%		
島根県	8	0.5%		
岡山県	20	1.3%		
広島県	13	0.8%		
山口県	8	0.5%		
徳島県	9	0.6%		
香川県	4	0.3%		
愛媛県	2	0.1%		
高知県	2	0.1%		
福岡県	16	1.0%		
佐賀県	2	0.1%		
長崎県	3	0.2%		
熊本県	3	0.2%		
大分県	2	0.1%		
宮崎県	5	0.3%		
鹿児島	2	0.1%		
沖縄県	8	0.5%		
不明	14	0.9%		
合計	1568	100.0%	1568 100.0%	1568 100.0%

# <10-3>KITの認知経路などに関して

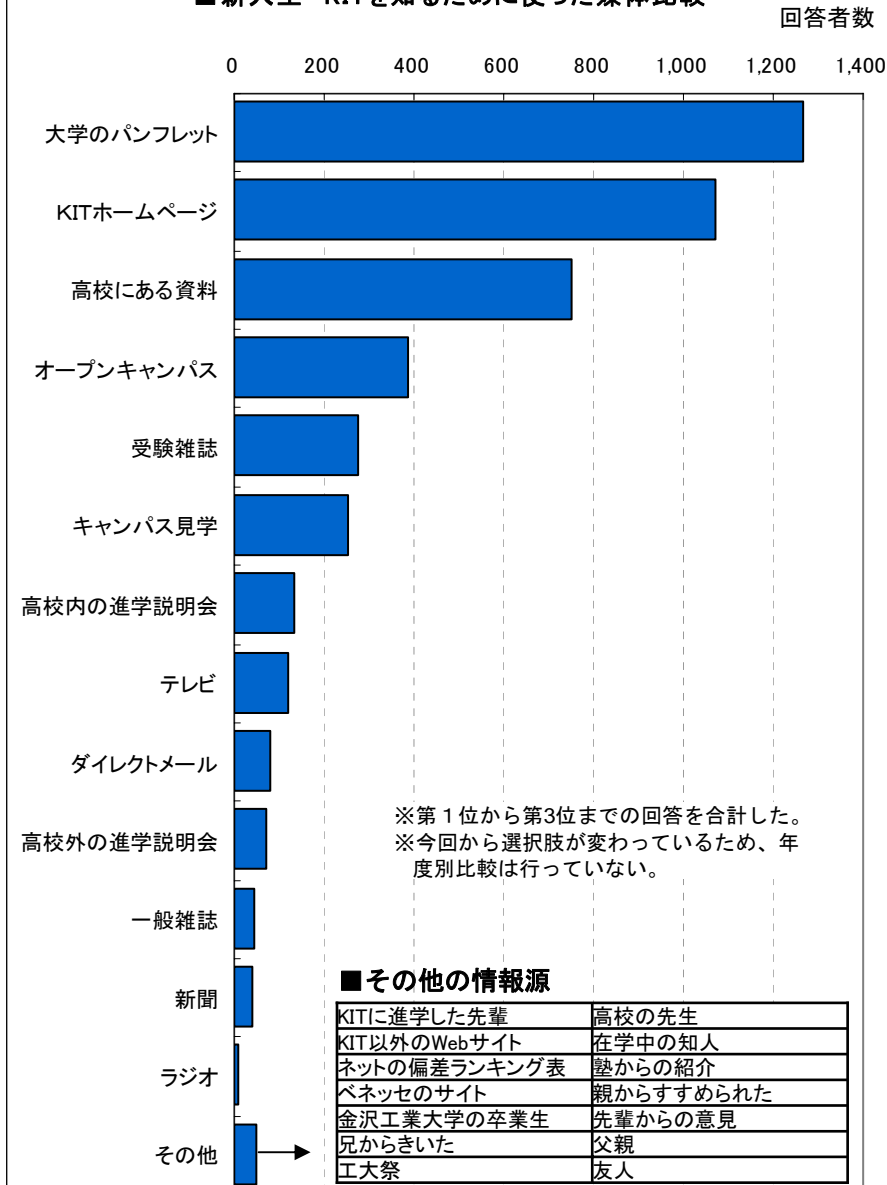
## ■KITを知った時期と利用した媒体

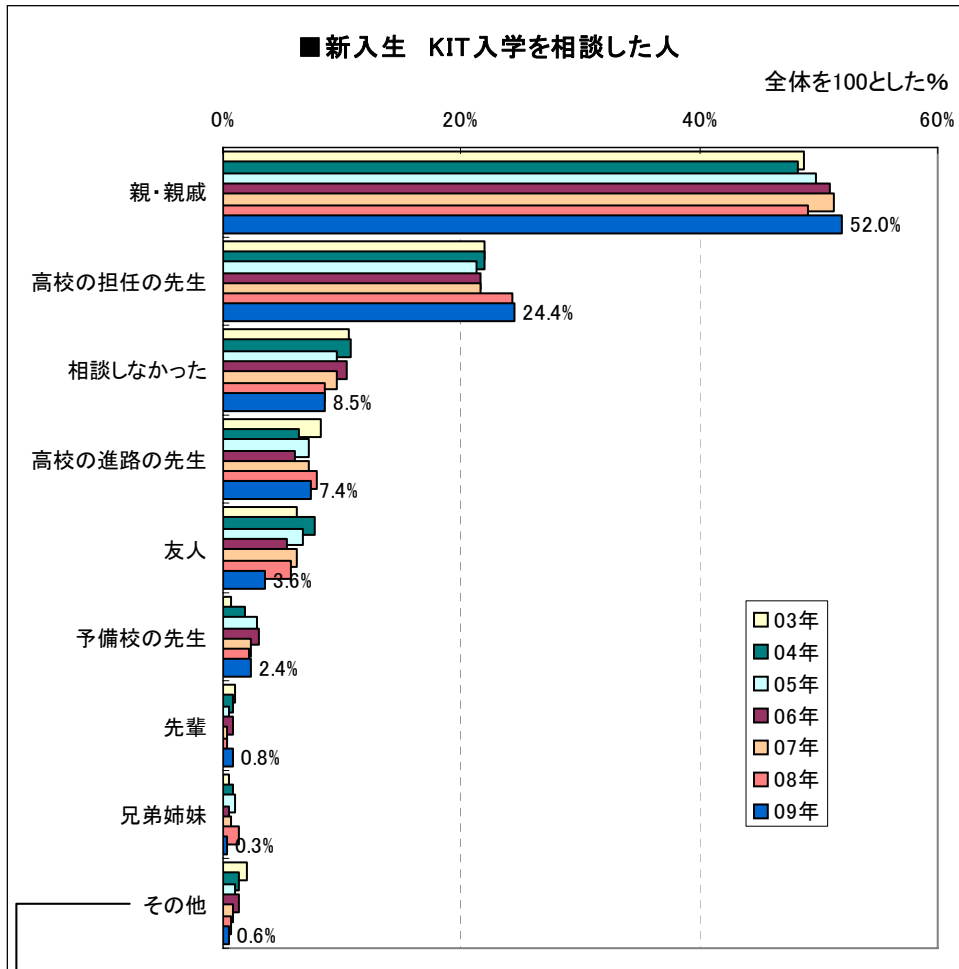
- KITを知った時期に関しては「高校3年」が34.1%と最も多く、次いで「高校2年」が26.9%、「高校1年」が22.3%と続いており、「中学以前」は13.6%にとどまった。
- KITを知った時期の経年変化を見ると、04年から07年頃までは「高校2年」が増加して、やや早まる傾向が見られたが、08年以降はほとんど変化がないと言える。
- 「KITを知るために使った媒体」で最も多かったのは「大学のパンフレット」であり、パンフレットが重視されていることが分かった。
- 次いで「KITホームページ」が挙げられており、「パンフレット」と「ホームページ」の重要性が確認できた。
- 次項で「KIT入学を相談した人」を見たが、「親・親戚」が半数を占めており、「高校の担任の先生」が1/4という割合であり、時系列変化を見ると、それほど大きな変化は見られなかった。
- 「学科を選択した理由」では「学科で学ぶ内容」が41.6%、「将来性」が19.3%、「学科の名称・イメージ」が13.1%と続いており、過去の調査と比べて大きな変化は見られなかった。

■新入生 KITを知った時期比較



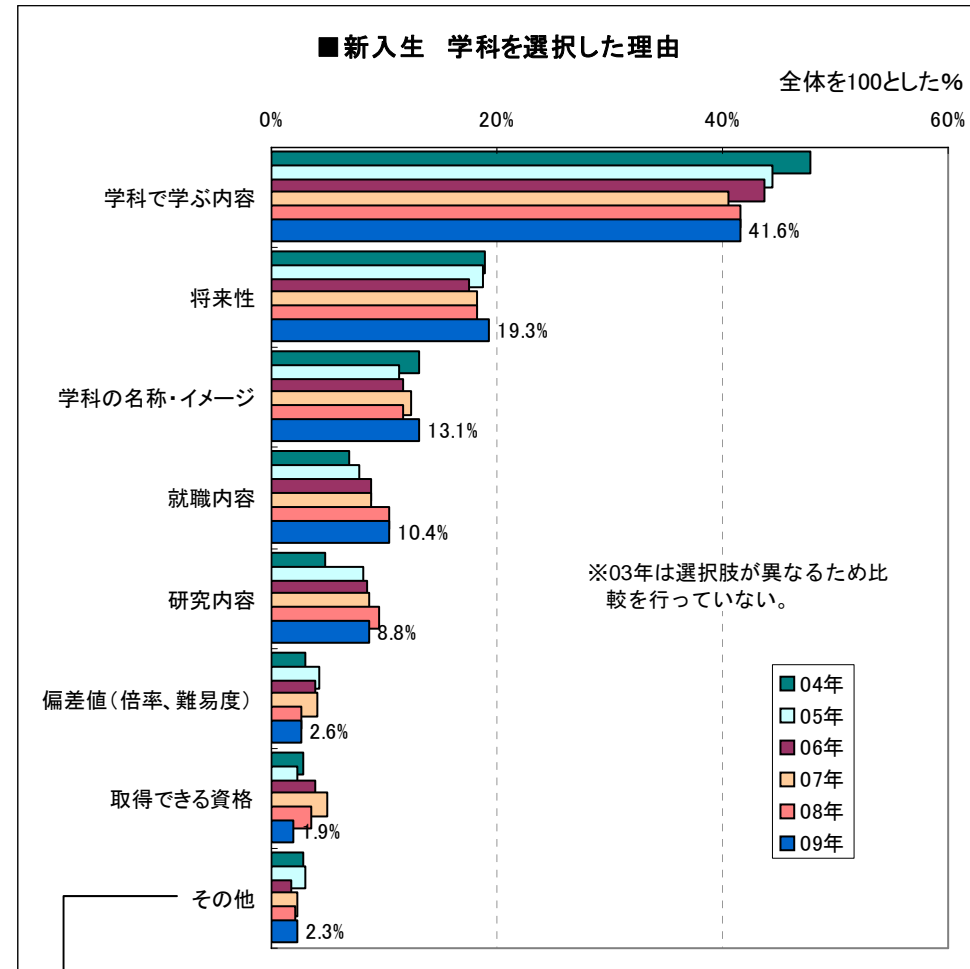
■新入生 KITを知るために使った媒体比較





#### ■ その他の相談相手

家庭教師	通っていた塾の塾長
塾の先生	物理の先生
大学の先生	予備校のチューター
数学・化学の先生	

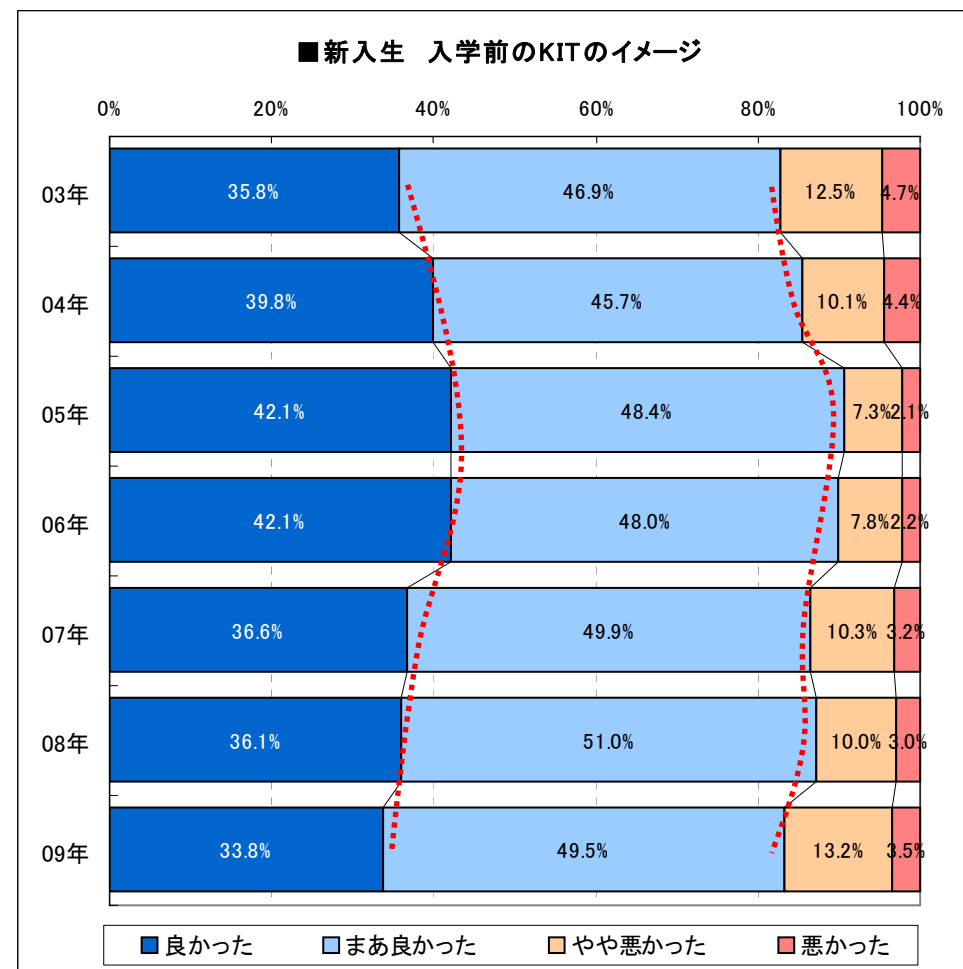


#### ■ その他の学科選択理由

CKDの故中村氏にあこがれて	車について学びたいと思ったから
以前からの夢	小さい時の夢だったから
応用化学科に入るのが夢だったから	親の影響
学習環境	祖父のやっていた仕事に興味が出てきたから
興味があったから	中国の地震のニュースを見て
研究室の説明を見て興味をもった。	得意な学科が化学だったので
好きだから	物理・化学が受験科目になかった←メディア情報
高校で学んだことの続きなどを学びたかったから	夢があるから

## ■入学前のKITのイメージ

- 入学前のKITのイメージに対しては、「良かった」が33.8%、「まあ良かった」が49.5%であり、合わせると83.3%は良いイメージを持って入学していると言える。
- 8割以上が良いイメージを持っているのは良いことだと思われるが、残りの2割がどのようなイメージで入学しているのかが気になる点と言える。
- 時系列変化を見ると、03年から05年頃までは、良い印象を持って入学してくる学生が増加する傾向が見られたが、06年以降はやや減少傾向にあり、前回調査(87.1%)と比べると3.8ポイント減少しており、大学イメージの低下が起きていることが分かった。

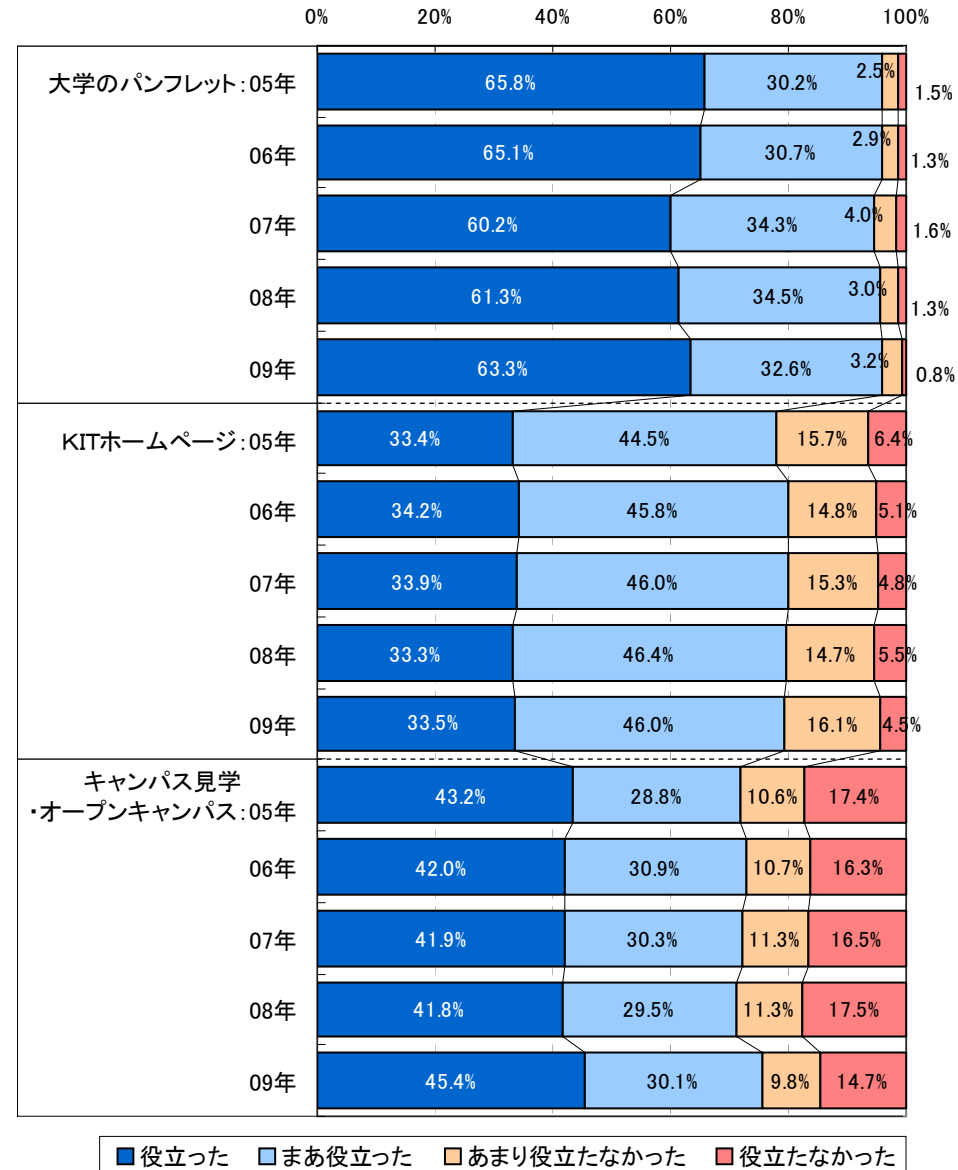




## ■ 代表的な媒体の評価

- 代表的な媒体が役立ったかどうかを聞いた。
- 「大学のパンフレット」に関しては「役立った」が63.3%、「まあ役立った」が32.6%であり、合わせると95.9%が役立ったと感じており、他の2つと比較しても非常に評価が高かった。
- 「KITホームページ」では「役立った」が33.5%、「まあ役立った」が46.0%であり、合わせると79.5%が役立ったと感じており、「パンフレット」よりもやや低いものの、約8割が肯定的な意見であった。
- 「キャンパス見学・オープンキャンパス」に関しては「役立った」が45.4%であり、この部分だけを見ると「KITホームページ」を上回っており、一部の利用者には非常に有効であったと言える。そして、「まあ役立った」は30.1%で、合わせると75.6%が役立ったと感じていた。
- 経年変化を見ると、「大学のパンフレット」「KITホームページ」の評価はこの項目を加えた05年からほとんど評価は変わっていないが、「キャンパス見学・オープンキャンパス」の評価は05年から08年までは変わらなかったものの、09年には評価がやや良くなっており、何らかの改善がなされたのではないかと思われる。

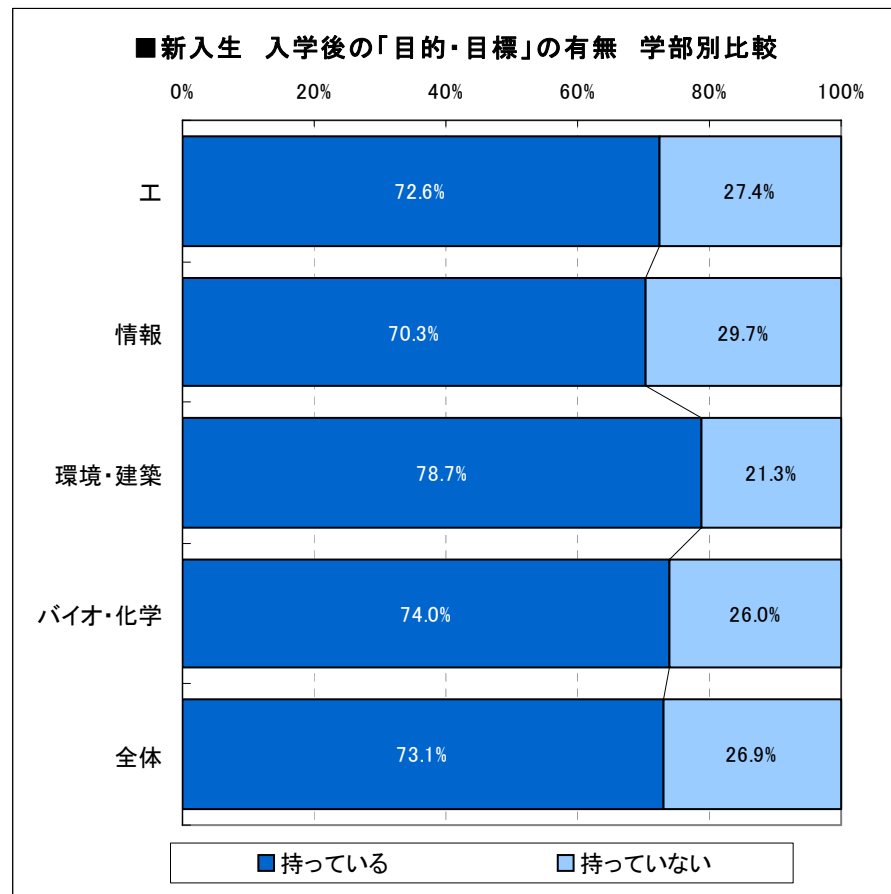
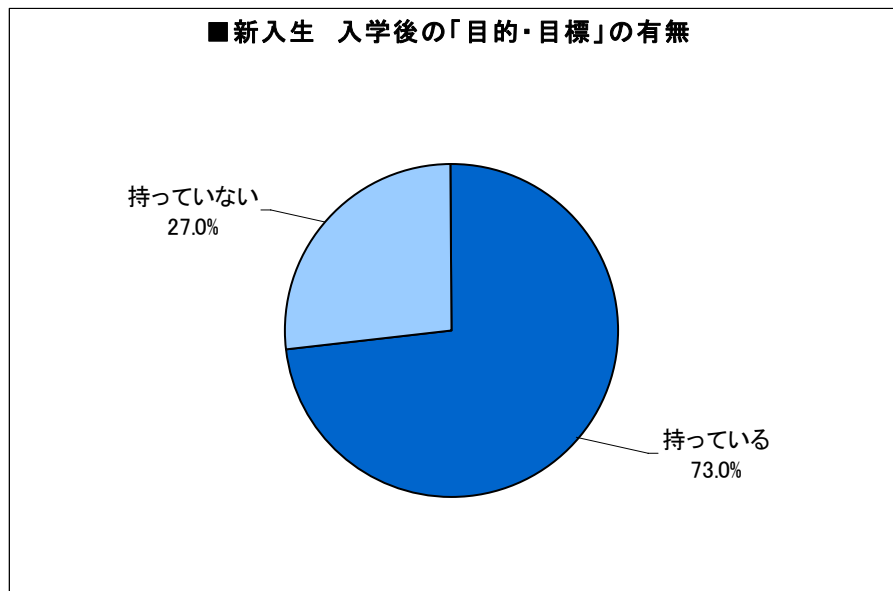
### ■ 新入生 代表的な媒体の評価



# <10-4>入学後の目的・目標、期待に関して

## ■入学前の目的・目標の有無、期待、心構え

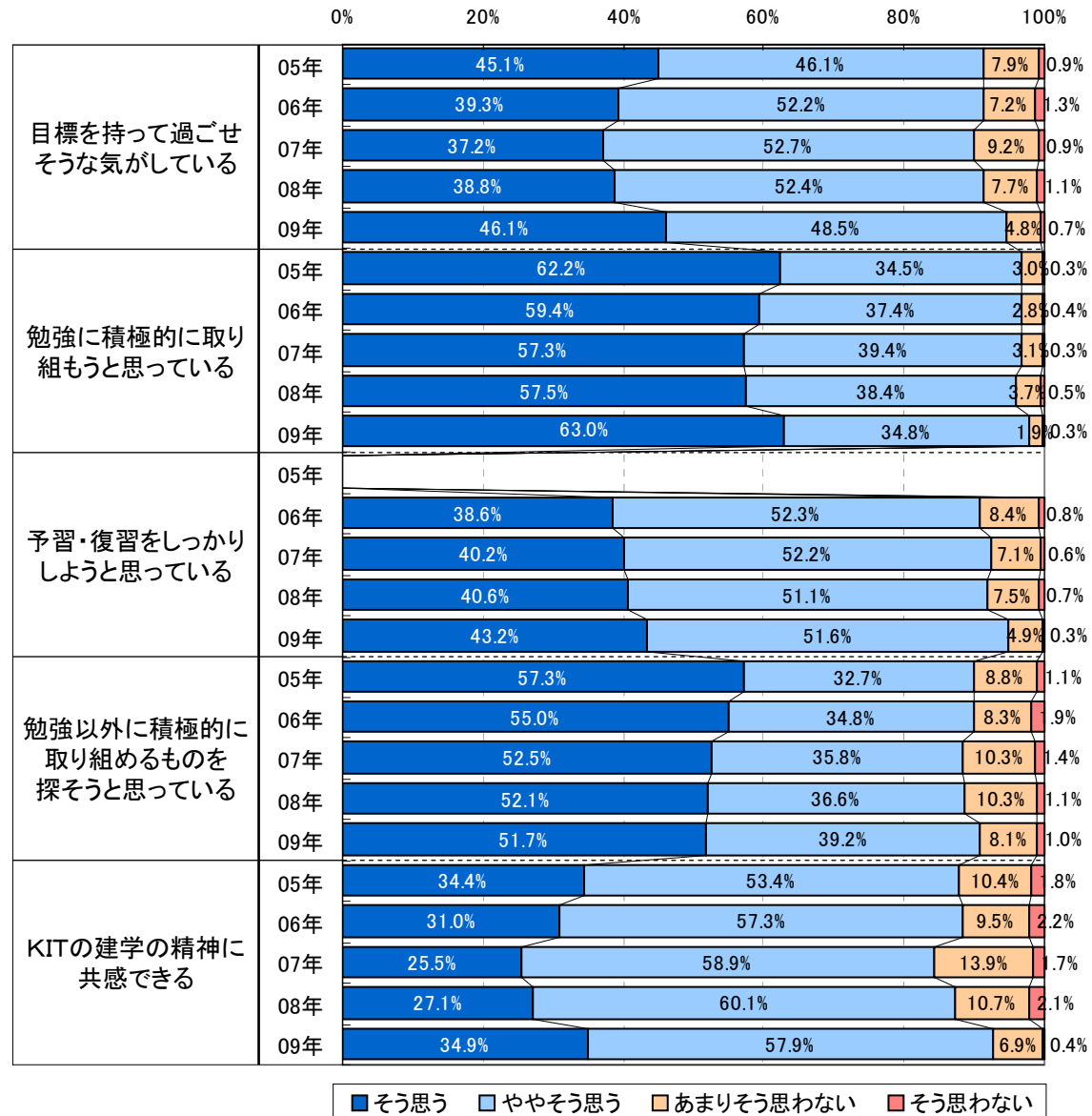
- 今回から「大学に入ってからこれがやりたいという目的・目標を持っていますか？」という質問を加えたが、全体の結果を見ると「持っている」が73.0%、「持っていない」が27.0%であり、3/4は何らかの目標を持って入学してきていることが確認できた。
- 学部別の比較を見ると、全学部で7割以上が「目標を持っている」と答えていた。「目標を持っている」という割合が最も多かったのは「環境・建築学部」であり、次いで「バイオ・化学部」「工学部」「情報学部」という順であり、「環境・建築学部」と「情報学部」の間には8.4ポイントの差があった。



## ■KITへの期待、心構え

- 「KITへの期待、心構え」として、5つの項目に関しては05年から継続的に聞いている。
- 「目標を持って過ごせそうな気がしている」に関しては「そう思う」が46.1%、「ややそう思う」が48.5%であり、合わせると94.6%が肯定的な意見であり、前回と比べると肯定的な意見は増加していた。
- 「勉強に積極的に取り組もうと思っている」「予習・復習をしっかりとしようと思っている」「勉強以外に積極的に取り組めるものを探そうと思っている」はいずれも9割以上が肯定的な意見であり、積極性がうかがえた。
- 特に「勉強」に関しては97.8%が肯定的な意見であり、過去と比べても最も多く、勉強に対する意気込みの強さを感じられた。
- 「KITの建学の精神に共感できる」でも92.8%が肯定的な意見であり、前回と比べると肯定的な意見が5.6ポイント増加しており、建学の精神に対する意識の変化がうかがえた。

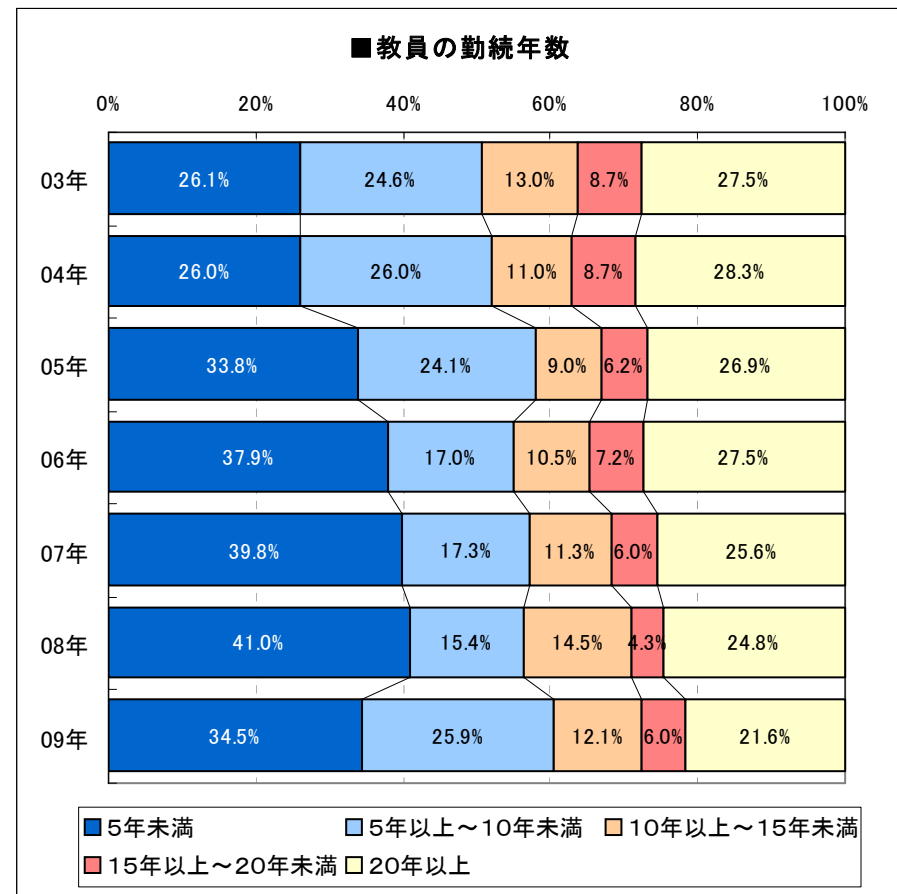
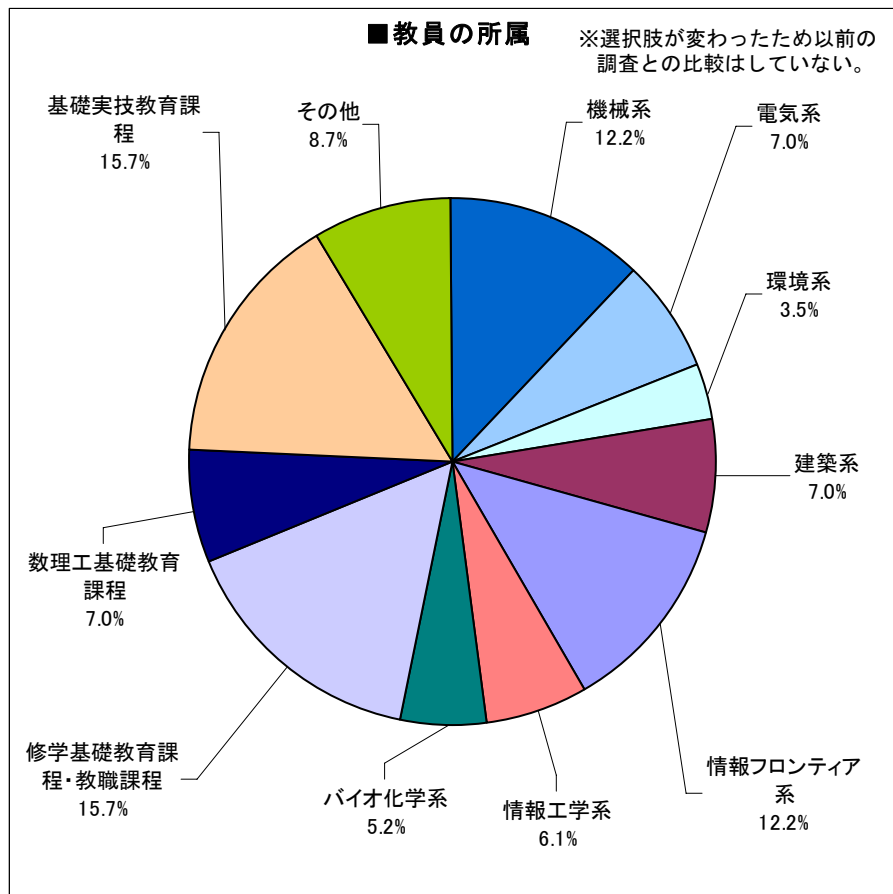
### ■新入生 KITへの期待、心構え



# <11-1>教員の基本属性

## ■教員の基本属性

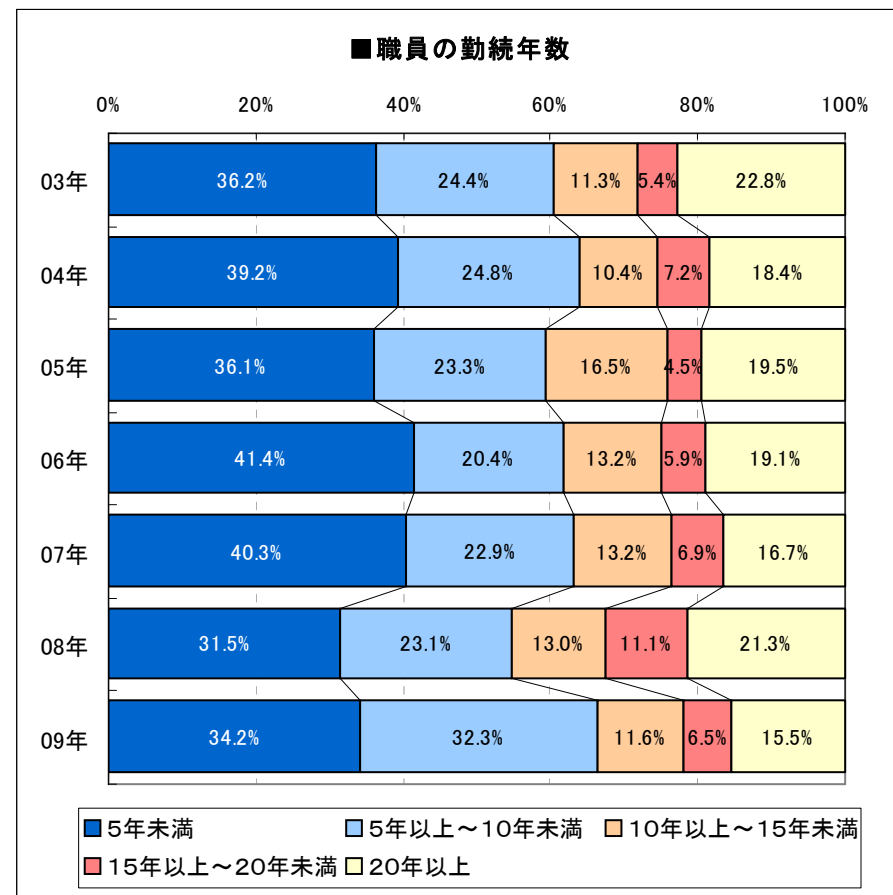
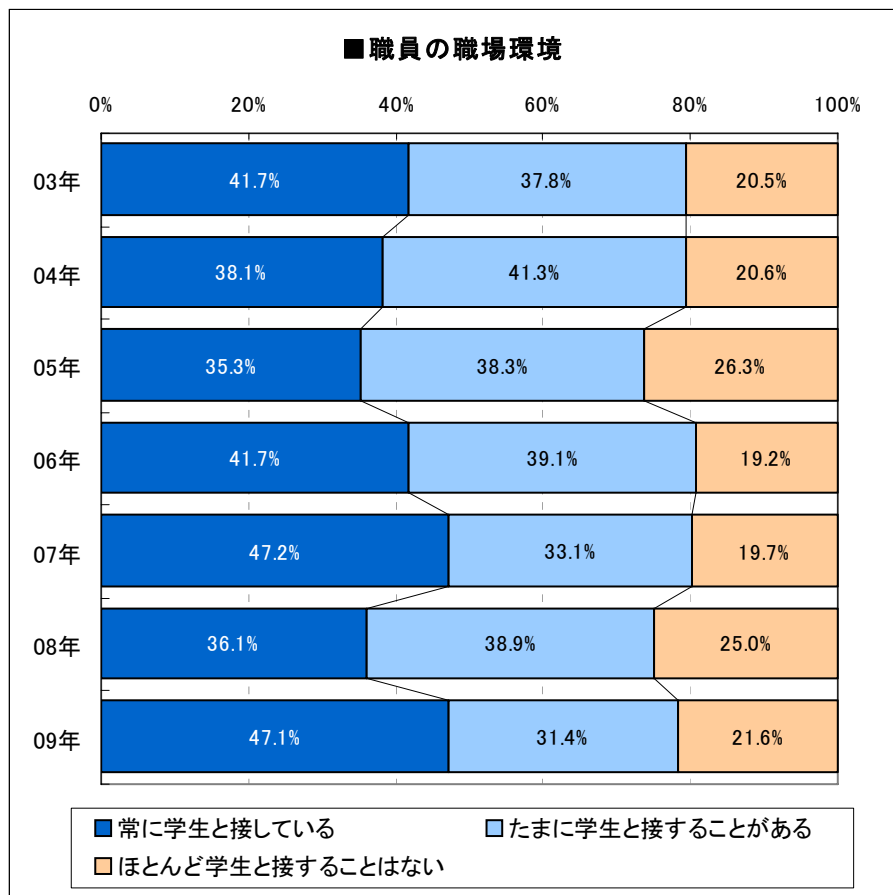
- 回答した教員の所属は下記の通りであり、「修学基礎教育課程・教職課程」「基礎実技教育課程」の2つが15.7%と最も多く、次いで「機械系」「情報フロンティア」が12.2%であった。
- 勤続年数では「5年未満」が34.5%と最も多く、次いで「5年以上～10年未満」が25.9%、「20年以上」が21.6%と続いていた。
- 勤続年数の経年変化を見ると、前回調査と比べて「5年以上～10年未満」が10.5ポイント増加しており、「5年未満」が6.5ポイント減少、「20年以上」が3.2ポイント減少していた。
- 「20年以上」は06年から継続的に減少しているが、「5年未満」は増加傾向から一転して減少し、「5年以上～10年未満」は減少傾向から一転して増加となっており、全体としては中間層が増加していると言える。



# <11-2> 職員の基本属性

## ■ 職員の基本属性

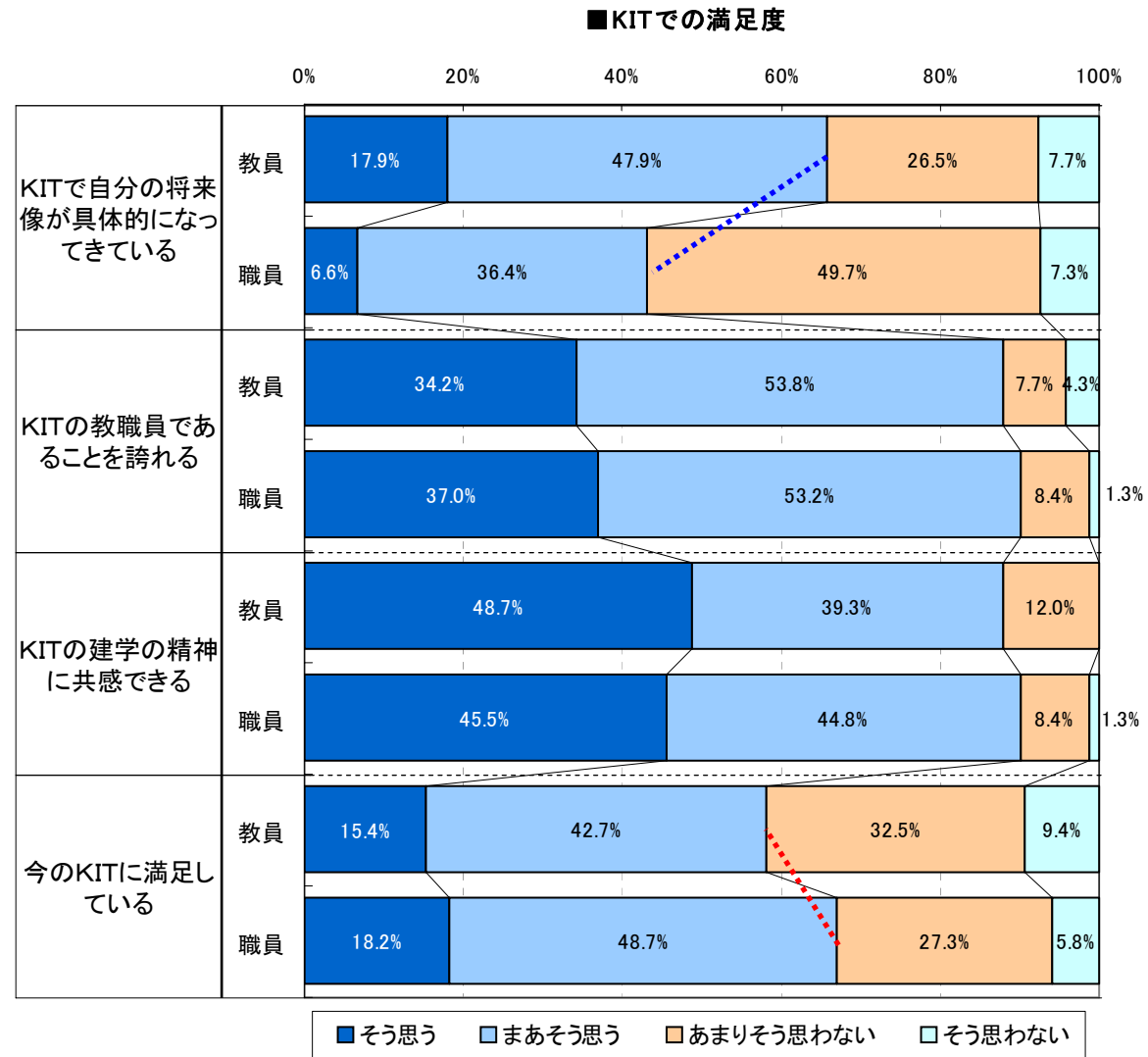
- 回答した職員の職場環境を見ると、「常に学生と接している」が47.1%と最も多く、「たまに学生と接することがある」が31.4%、「ほとんど学生と接することはない」は21.6%という内訳であった。
- 前回調査と比べると「常に学生と接している」が11.0ポイント増加しており、「たまに学生と接することがある」が7.5ポイント減少していた。経年変化を見ると、毎年少しずつ変化はあるものの、長期的な傾向は見られなかった。
- 勤続年数では「5年未満」が34.2%、「5年以上～10年未満」が32.3%であり、10年未満の職員が全体の66.5%を占めていた。
- 08年の調査では「20年以上」が21.3%と多く、10年未満の職員は合わせて54.6%と少なかった。今回は10年以上の3属性すべてが減少しており、前回の回答者の属性とやや差が見られた。



# <11-4>KITでの満足度

## ■KITでの満足度

- KITでの満足度に関しては4つの項目を聞いている。
- 「KITの教職員であることを誇れる」「KITの建学の精神に共感できる」の2項目は教員と職員の間にはほとんど差はなく、2つの項目ともに9割程度が肯定的な意見であった。
- 「KITで自分の将来像が具体的になってきている」では教員は65.8%が肯定的であり、職員の43.0%を22.8ポイント上回っていた。他の項目と比べるとこの差は大きく、教員に比べると職員は将来が見えておらず、やや不安に感じているのではないかと思われる。
- 「今のKITに満足している」では教員は58.1%が満足しているが、職員は66.9%であり、教員を8.8ポイント上回っていた。
- 今回、KITに満足している教職員は6~7割いるという結果となった。今回の調査では聞いていないが、過去の調査ではKITの学生の6割程度は大学に満足していることが分かっており、教職員とほぼ同じであった。今後は、学生の満足度を上げることも重要であるが、その役目を担う教職員の満足度向上も同じように重要であり、同時に考えていくべき課題だと言える。



---

継続的な改善活動のために!

在学生・卒業生・教職員

## 2009 KIT総合アンケート調査結果[報告書]

■発行日	平成21年9月18日
■発行者	学校法人 金沢工業大学
■調査票設計・分析	有限会社 アイ・ポイント
■編集	金沢工業大学企画部CS室

---

無断複製厳禁